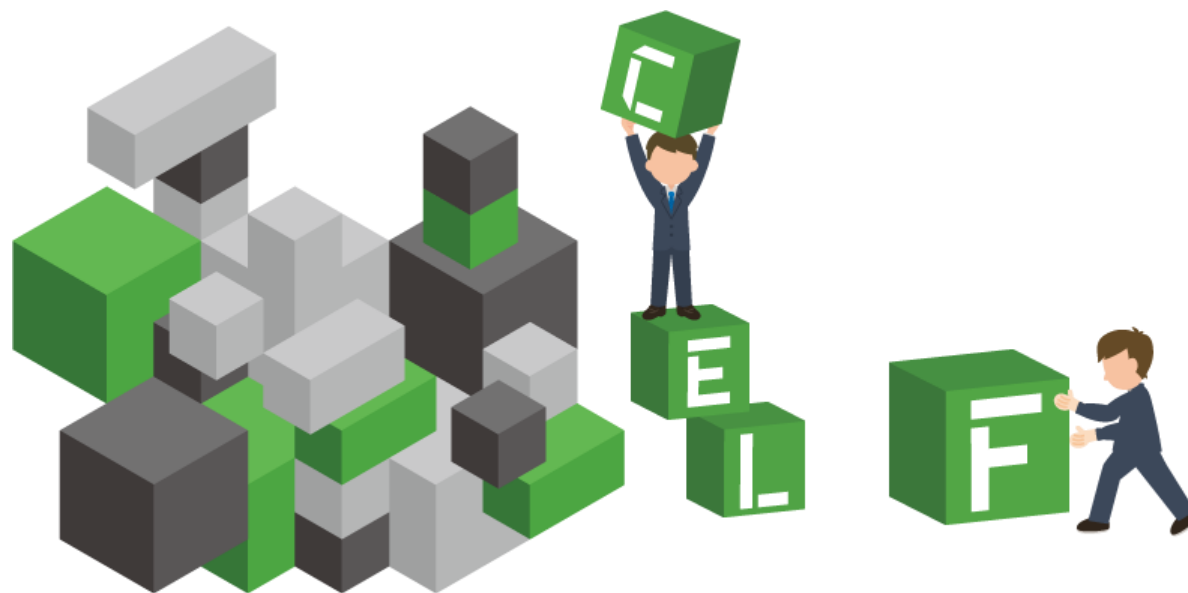


現場の業務アプリケーションは

「開発」から「つくる」へ

CEL F RPA オンラインセミナー V.2.2



事前準備

1. CELFのインストール（未だの方）

インストール方法は、CELFご契約時、または、トライアルお申し込み時にご案内しています。ご担当の方にご確認ください。

RPAは、トライアル環境の方はPC1台までご利用できます。

トライアル環境以外の方はRPAライセンスが必要です。

2. コンテンツのダウンロード

「RPAセミナー用ファイル」をオンラインセミナー動画公開ページよりダウンロードしてください。

解凍すると以下のような構成になっております。

- ①1_システム転記ロボット.capp
- ②2_Webサイト転記ロボット.capp
- ③rpademoフォルダ

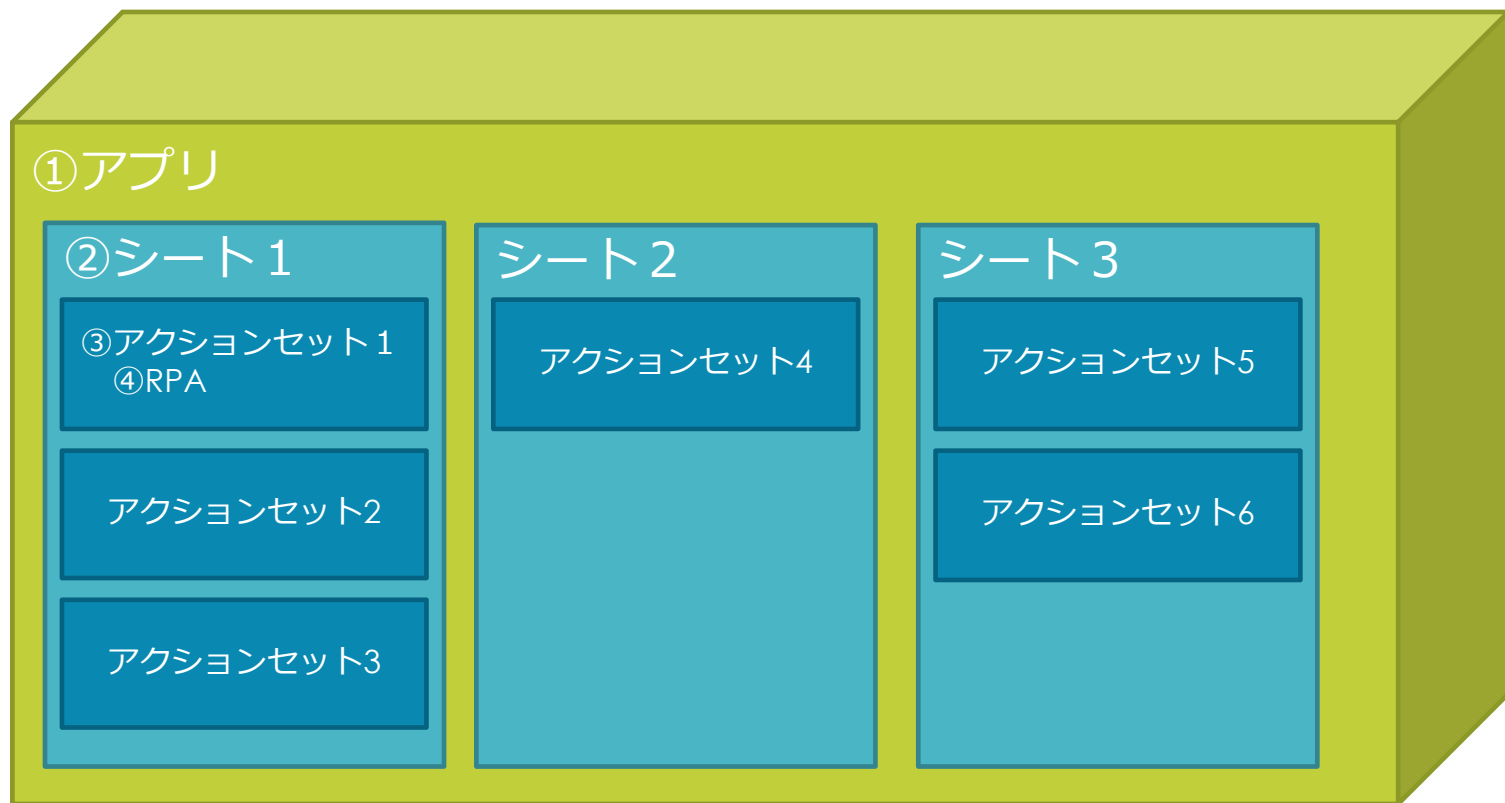
③をCドライブ直下にコピーしてください。以下のファイル構成になっていればOKです。

```
C:¥rpademo
├─ ¥SeminarApp¥SeminarApp.exe
├─ ¥SeminarWeb¥SeminarWeb.html
└─ データ.xlsx
```

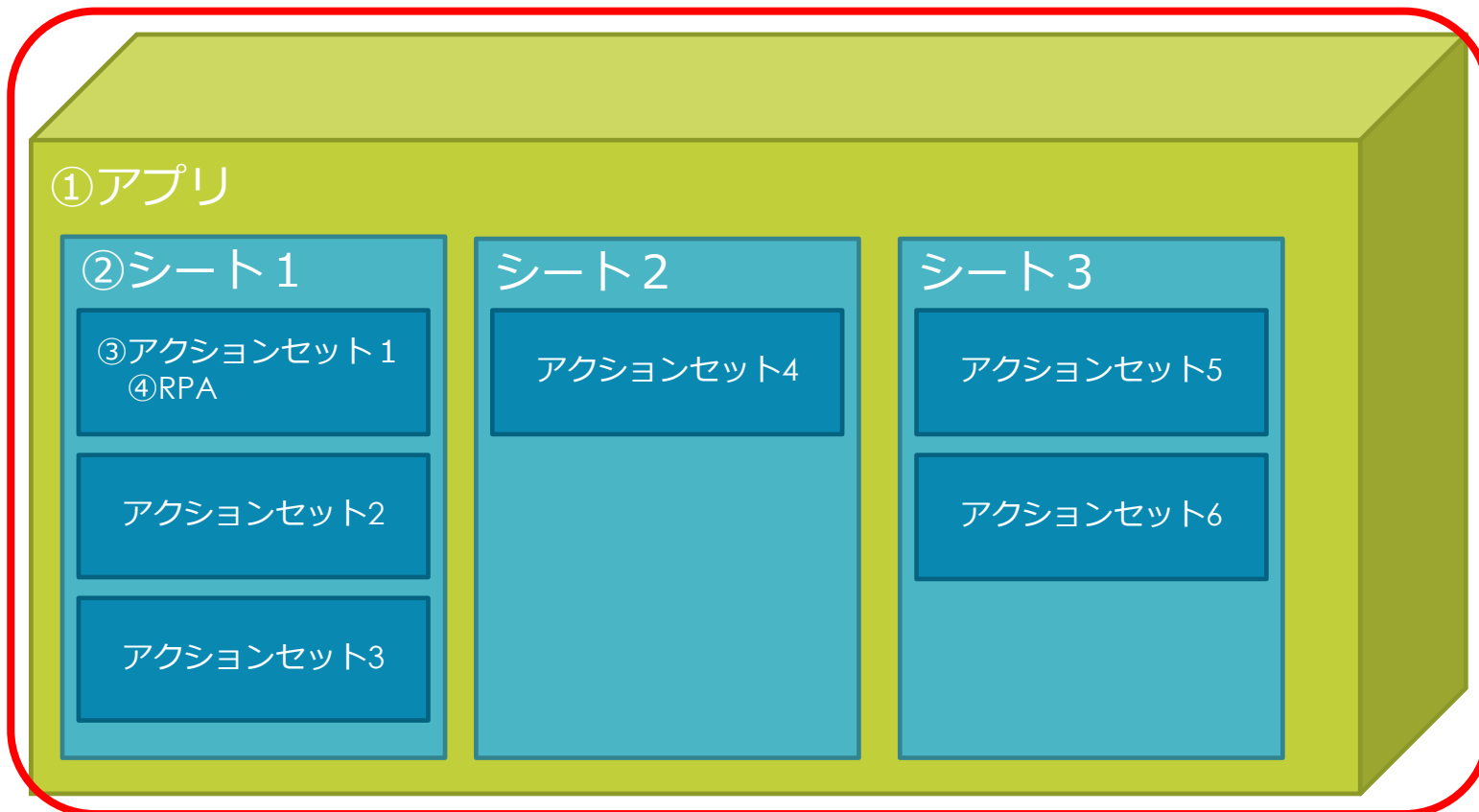
CELF+RPAの基本



CELF+RPAの基本：概念図



CELF+RPAの基本：①アプリ



CELF+RPAの基本：①アプリ

アプリとは

業務の目的に応じて使うソフトウェアを指します。

「予算実績管理アプリ」、「見積・案件管理アプリ」など業務単位にアプリを作成します。

アプリの作成

アプリを作成するには2通りの方法があります。

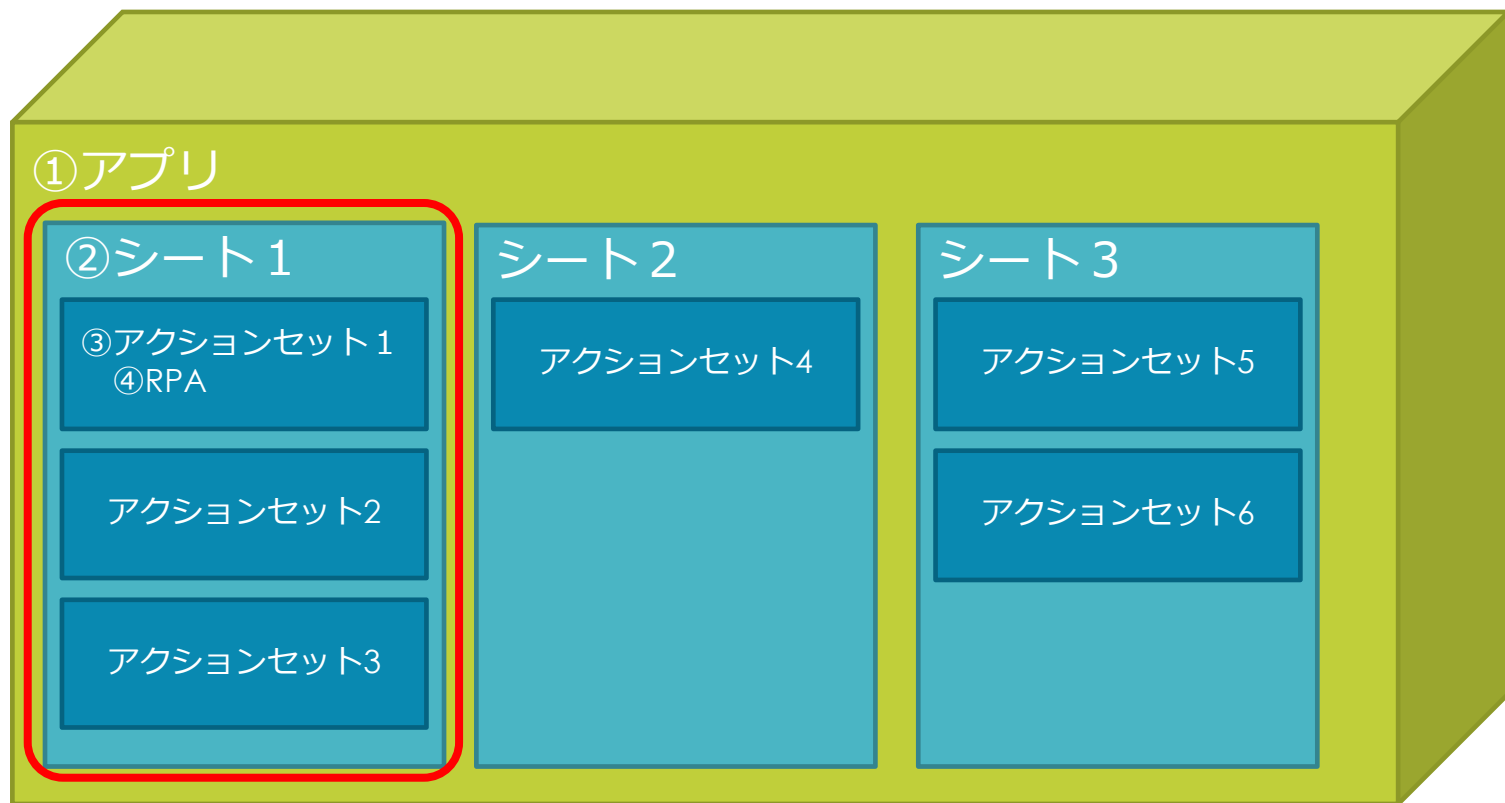
1. 新規作成

アプリを新規に作成し、一から作ります。

2. EXCELから自動作成

既存のEXCELファイルをインポートし、必須項目やレイアウトを設定してアプリを作成します。

CELFRPAの基本：②シート



CELFRPAの基本：②シート

シートとは

アプリ内に必要な画面をシートとして作成します。
アプリ利用者が操作する画面を目的に応じて必要なだけ用意します。

シートの作成

シートを作成する方法は2通りあります。

1. 新規作成

何も入力されていないシートを新規に作成し、画面レイアウトを一から作ります。

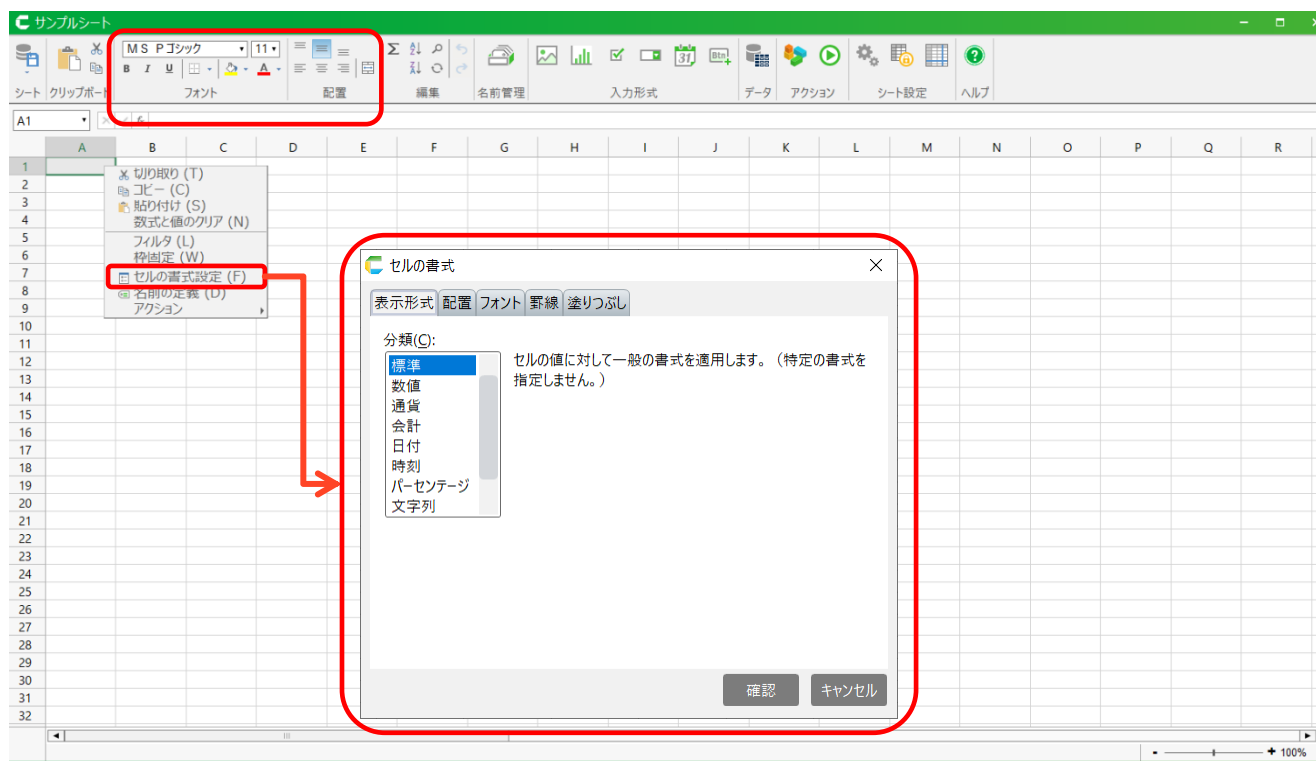
2. 既存EXCELをインポート

既存のEXCELのシートをインポートし、そのままCELFRの画面レイアウトとして利用します。

CELFRPAの基本：②シート～EXCELのように編集可能～

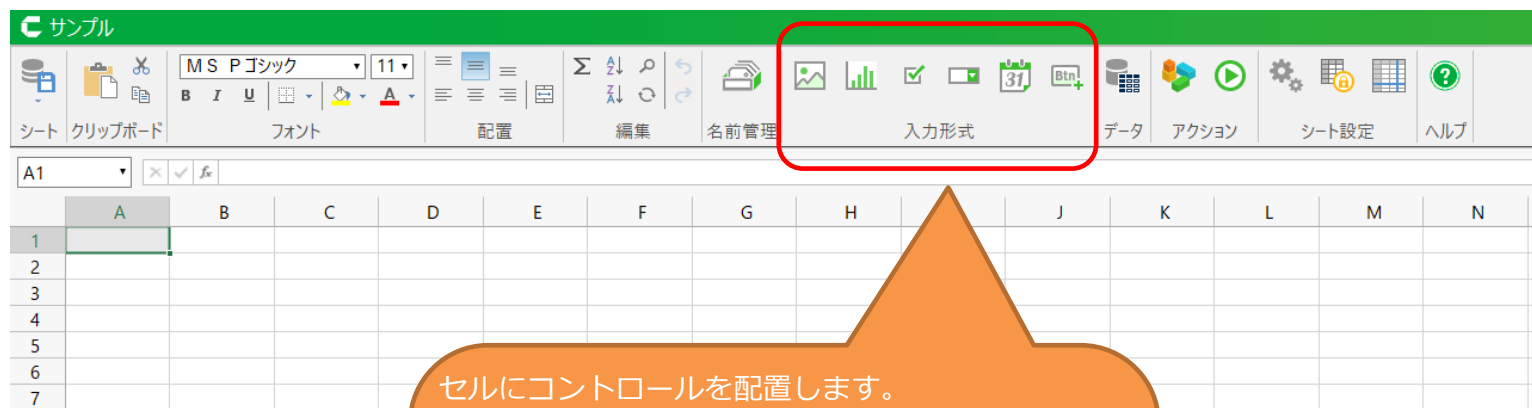
EXCELと同じような操作（セルの結合、塗りつぶし、枠付けなど）でシートのレイアウトを編集します。

リボンメニューの「フォント」や「配置」、右クリックメニューの「セルの書式設定」などを利用してレイアウトの編集を行います。



CELFRPAの基本：②シート～コントロール配置（入力形式）～

リボンメニューの「入力形式」から、「ボタン」や「リストボックス」などのコントロールを選択してセル上に配置することができます。
また、コントロールはCELFR独自の関数を利用してセルに直接配置することもできます。



セルにコントロールを配置します。
左から以下の通りです。



画像



グラフ



チェックボックス



リストボックス



カレンダー



ボタン

CELf+RPAの基本：②シート～CELfで利用できる関数～

CELfでもEXCELの主要な数式や関数を使うことができます。
EXCELと同じく、セルに=で始まる文字を入力することで数式や関数を利用できます。

	A	B	C
1			
2			=1+2
3			

	A	B	C	D
1				
2	1	3	=SUM(A2,B2)	
3				

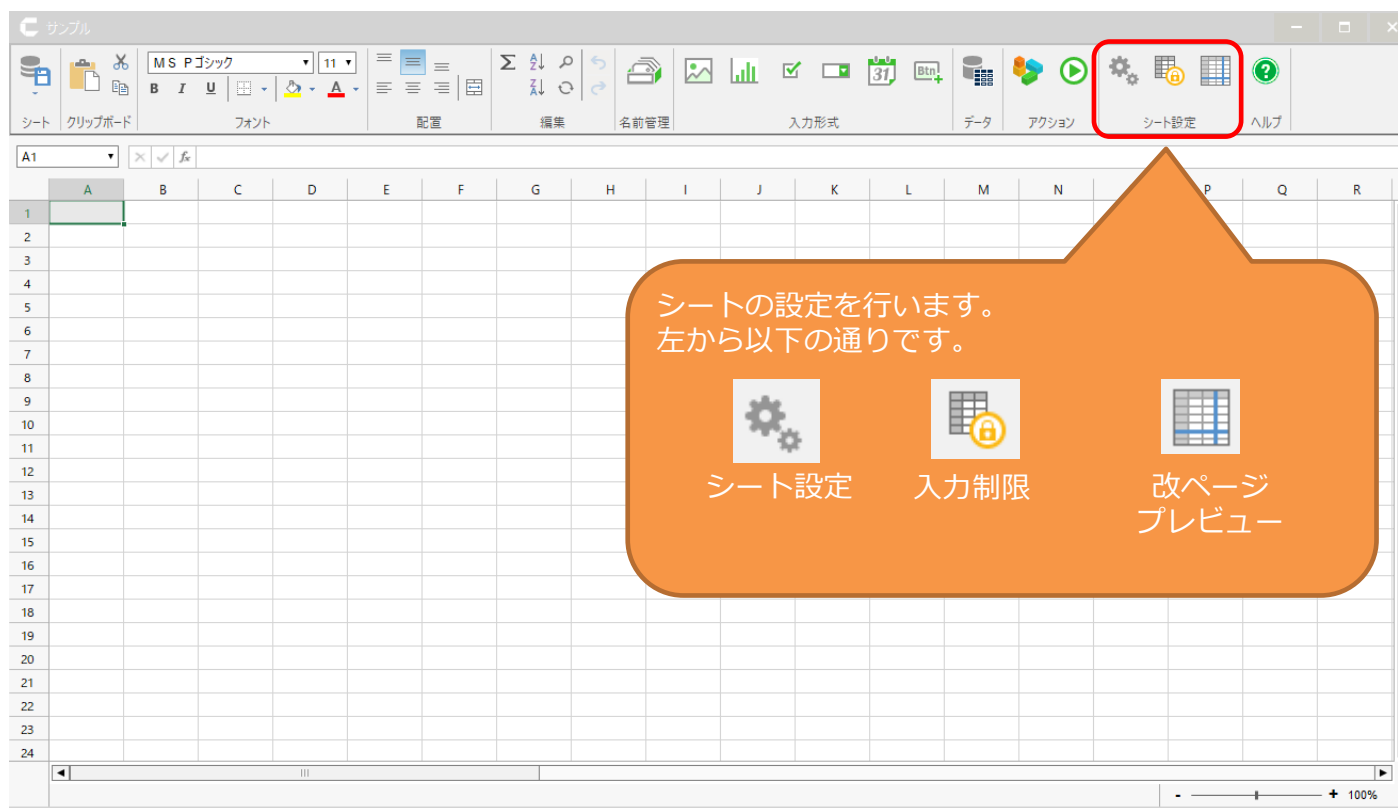
以下は利用できる関数の一例です。CELf独自の関数も存在します。

利用できる関数	機能
VLOOKUP	指定された範囲の1列目で値を検索し、同じ行の指定した列の値を返します
SUM	引数を合計します
SUMIF	指定された検索条件に一致するセルの値を合計します
CHECK	セルにチェックボタンのコントロールを配置します ※CELf独自の関数
CALENDAR	セルにカレンダーのコントロールを配置します ※CELf独自の関数
USER.NAME	ログインユーザの名前を返します ※CELf独自の関数

数式や関数の入力の方法、その他CELfで利用できる関数の一覧は、ヘルプページから確認できます。

CELFRPAの基本：②シート～シート設定～

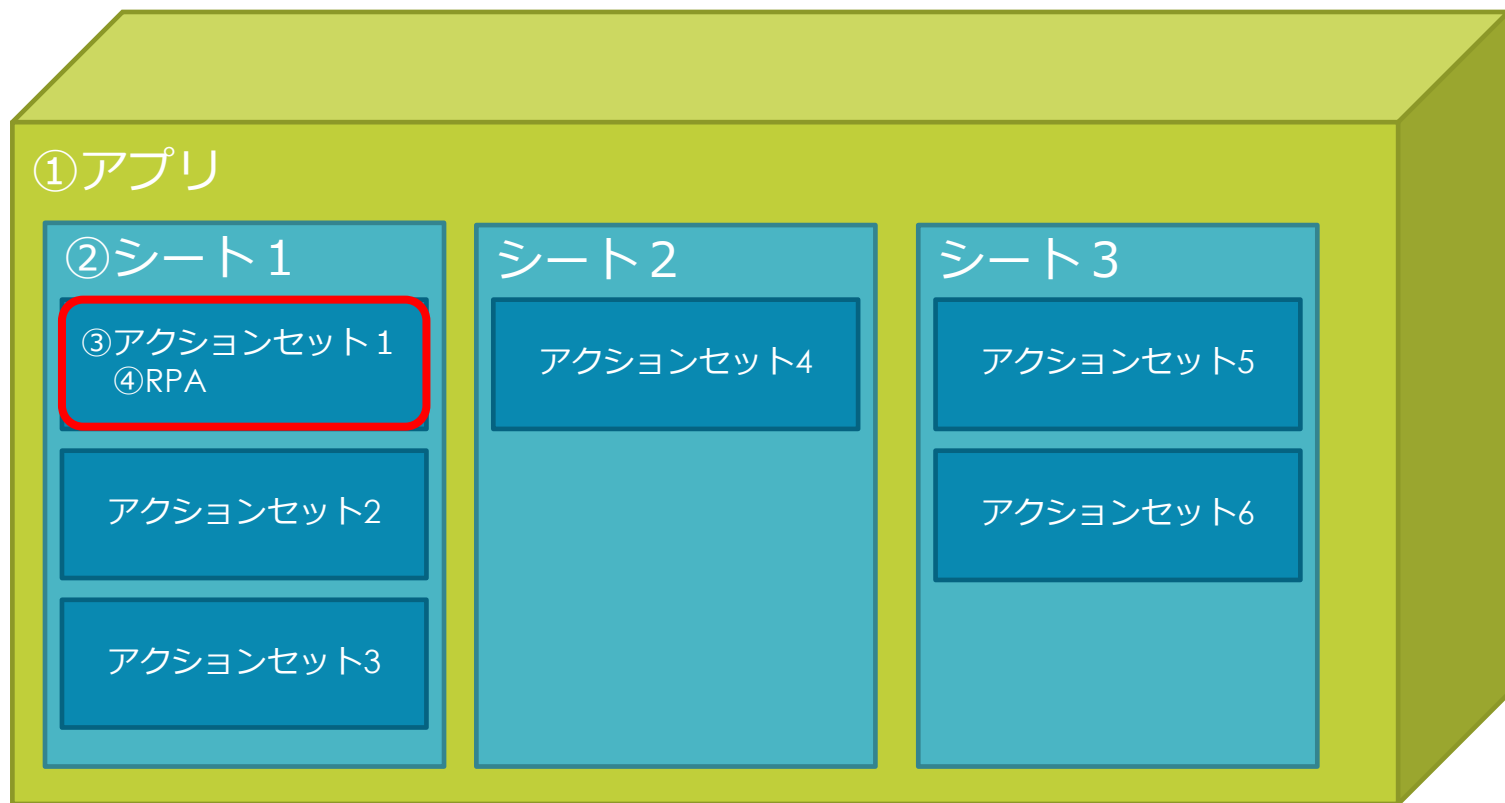
アプリとして表示するときの画面サイズや、入力を許可するセル、印刷時の改ページ位置などを設定できます。



シートの設定を行います。
左から以下の通りです。

- シート設定
- 入力制限
- 改ページプレビュー

CELFRPAの基本：③アクション



CELF+RPAの基本：③アクションセット

アクションセットとは

画面上の操作に応じて実行される処理を、CELFではアクションセットと呼びます。

アクションセットの作成

アクションセットは、以下の3つの手順で作成します。

1. アクションセット作成

CELFで、あらかじめ用意されたアクション（部品）をドラッグ&ドロップで組み立ててアクションセットを作成します。

アクションとは、命令や動作をブロックで表したものです。

2. アクションセット実行タイミングの設定

作成したアクションセットを実行する操作を設定します。

- ・シートを初期表示したとき
- ・シート上に配置したボタンを押したとき
- ・セルの内容が変更されたとき

3. 動作確認

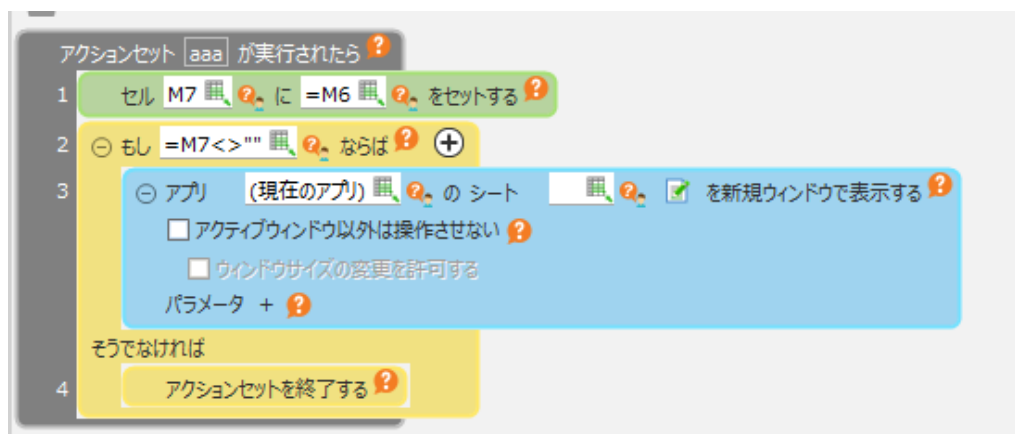
作成したアクションセットをテスト実行し、動きを確認します。

CELLF+RPAの基本：③アクションセット ～作成手順～

アクションセットはアクションタブからアクションを1つ1つドラッグ&ドロップして作成します。



あらかじめ用意された様々なアクションを組み合わせ実行させたい処理を実現します。



CELFRPAの基本：③アクションセット～アクション紹介～

CELFRでは、「セル操作」「シート操作」「データ操作」「制御」「ファイル操作」などのカテゴリごとにアクションが用意されています。


セル操作 シート操作 データ操作 制御 ファイル操作

セルや行・列を操作するためのアクションがあります。
以下は「セル操作」アクションの一例です。

- ・セルに任意の値をセットしたいとき

セル  に  をセットする


- ・セルの値をクリアしたいとき

セル  の値をクリアする

- ・行を表示したいとき

行  を表示する

- ・列の表示・非表示を切り替えたいとき（例.表示の場合は非表示にする）

列  の表示・非表示を切替える

CELFRPAの基本：③アクションセット～アクション紹介～

セル操作 シート操作 データ操作 制御 ファイル操作

シートを操作するためのアクションがあります。
以下は「シート操作」アクションの一例です。

・別シートを新しく開きたいとき

アプリ (現在のアプリ) のシート を新規ウインドウで表示する
 アクティブウインドウ以外は操作させない
 ウインドウサイズの変更を許可する
パラメータ +

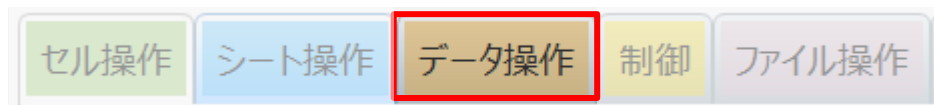
・別シートへ切り替えたいとき（元のシートは閉じる）

アプリ (現在のアプリ) のシート を に切替える
パラメータ +

・シートを閉じたいとき


シートを閉じる
パラメータ +

CELFRPAの基本：③アクションセット～アクション紹介～



データベースなどのデータを操作するためのアクションがあります。
以下は「データ操作」アクションの一例です。


・テーブルからデータを取得したいとき


テーブル から複数件取得する 

表示する列と表示先の設定


検索条件


ソート条件

取得開始行を指定する 行目から取得 

取得最大件数を指定する 最大で 件取得 

・テーブルのデータを更新したいとき

テーブル のデータを更新する 

他のユーザーが更新または削除していた場合はエラーとする 

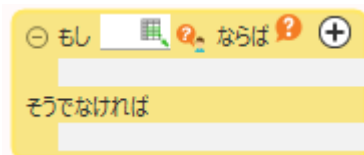
更新条件

CELFRPAの基本：③アクションセット～アクション紹介～

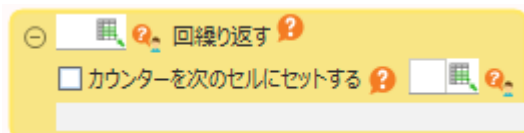
セル操作 シート操作 データ操作 **制御** ファイル操作

アクションの実行順序を制御するためのアクションなどがあります。
以下は「制御」アクションの一例です。

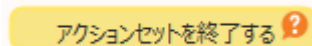
- ・条件により処理を分岐したいとき



- ・処理を繰り返したいとき（指定した回数分）



- ・アクションセットを終了したいとき



CELL+RPAの基本：③アクションセット～アクション紹介～

セル操作

シート操作

データ操作

制御

ファイル操作

ファイルを操作するためのアクションがあります。
以下は「ファイル操作」アクションの一例です。

- EXCELファイルのデータをセルにセットしたいとき

Excel ファイルのデータをセルにセットする ?

ポップアップで選択する
 指定パスを使用する

読み取り対象 Excel シート名

セット先指定 + ?

セル を起点に Excel ファイルの をセットする

- ファイルダイアログを開きたいとき

ファイルダイアログを開く ?

ファイルダイアログの種類

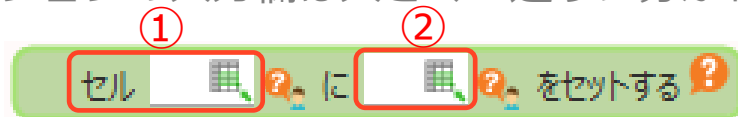
ファイルの拡張子

選択されたファイルのパスをセル にセットする

CELFRPAの基本：③アクションセット～入力欄について～

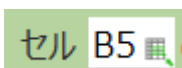
入力欄について

アクションの入力欄は大きく2通りに分かります。

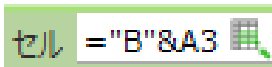


①「セル」が付いている入力欄

A1やB5のような形式のセルのアドレスを指定します。



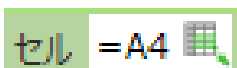
=で始めることによって、数式を使ってアドレスを指定することもできます。



B列の5（A3セルに入力されている値）行となり、B5が指定されます。

	A	B
1		
2		
3	5	
4	B5	
5		

←いずれの例もB5セルが指定されます。



B5（A4セルに入力されている値）が指定されます。

CELFRPAの基本：③アクションセット～入力欄について～

②「セル」が付いていない入力欄

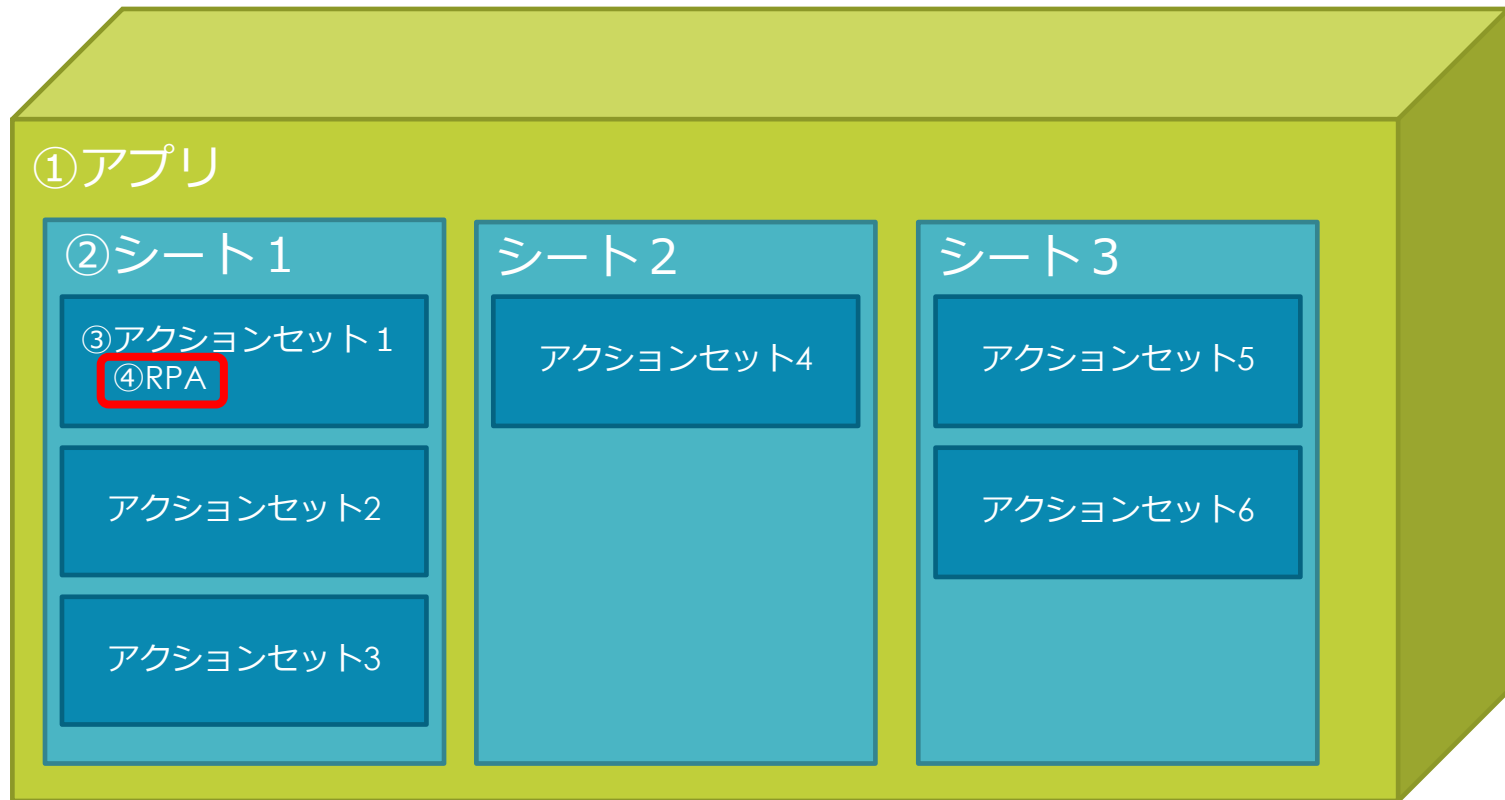
値を直接入力して指定します。

入力値	認識される値	備考
123	123	数値として認識されます。
B5	B5	文字列として認識されます。 セルのアドレスとは認識しません。

=で始めることによって、数式を使って値を指定することもできます。

入力値	認識される値	備考
=1+2	3	数式を計算した結果が認識されます。
=B5	B5セルの値	セルのアドレスと認識し、B5セルに入力されている値が使用されます。
=SUM(B5:B10)	B5～B10セルの値の合計	関数の結果が認識されます。 この場合、B5セルからB10セルに入力されている値の合計となります。

CELLF+RPAの基本：④RPA

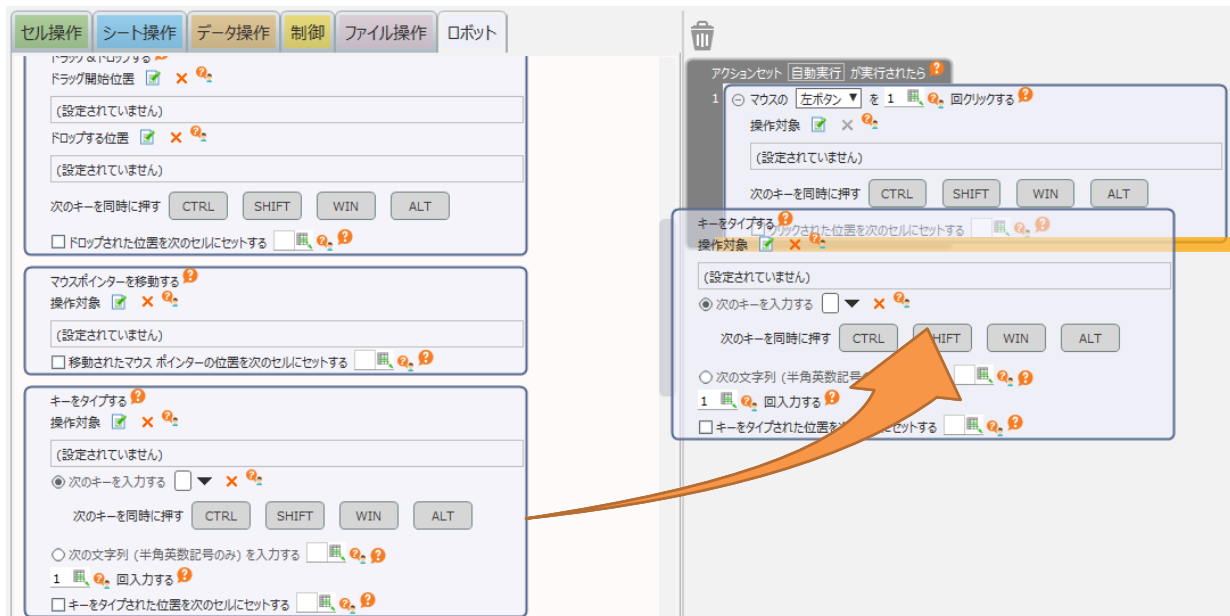


CELLF+RPAの基本：④RPA

RPAとは

RPAとは「ROBOTIC PROCESS AUTOMATION /ロボティック・プロセス・オートメーション」の略語で、自分のデスクワーク（マウス操作やキーボード操作）をロボットに教えて自動的に実行させる機能です。この機能で定型業務の自動化を実現します。

CELLFのRPAオプションを用いることで、マウス操作やキーボード操作など自動実行する手順を、あらかじめ用意されているアクションを組み立てることで実現します。



CELLF+RPAの基本：④RPA ～アクション紹介～

RPAオプションをインストールすると、アクションのカテゴリに「ロボット」が追加され、RPA用のアクションが使用できます。



キーボードやマウスを操作するためのアクションがあります。
以降は「ロボット」アクションの一例です。

- ・キーをタイプしたいとき

キーをタイプする ?

操作対象 ?

(設定されていません)

次のキーを入力する ?

次のキーを同時に押す

次の文字列 (半角英数記号のみ) を入力する ?

1 ? 回入力する ?

キーをタイプされた位置を次のセルにセットする ?

CELF+RPAの基本：④RPA ～アクション紹介～

- ・マウスをクリックしたいとき

マウスの を 回クリックする

操作対象

次のキーを同時に押す

クリックされた位置を次のセルにセットする

- ・マウスをダブルクリックしたいとき

マウスの をダブルクリックする

操作対象

次のキーを同時に押す

ダブルクリックされた位置を次のセルにセットする

- ・アプリを起動したいとき

アプリケーションを起動する

実行するアプリまたは開くファイル

起動オプション

ウィンドウを

表示されたウィンドウの位置と大きさを次のセルにセットする

アプリ起動後 秒待ってから領域を取得する

CELLF+RPAの基本：④RPA ～注意事項～

本セミナー中に、「ロボット」アクションを使用する上で注意事項があります。

- ・アクションセットを作成したPC以外での動作は保証されません。
本セミナーでのアプリの作成および実行は同じPCで行って下さい。
- ・ディスプレイを複数使用している環境でも操作可能なのはメインディスプレイです。
本セミナーでのアプリの作成および実行はメインディスプレイで行って下さい。
- ・画面の表示倍率などを変更すると作成したアプリが動作しなくなる場合があります。
本セミナーの途中で画面の表示倍率などを変更しないで下さい。

「ロボット」アクションを使用する上での必要な設定や注意事項の詳細はCELLF RPA HELPをご確認下さい。

[CELLF RPA HELP 注意事項](#)

つくるを学ぶ

～サンプルRPAアプリを作ってみる～



CELFO

作成する2つのアプリ

1. EXCELからのデータ自動転記ロボット
2. WEBサイトへのデータ自動転記ロボット

1. Excelからの データ自動転記ロボット

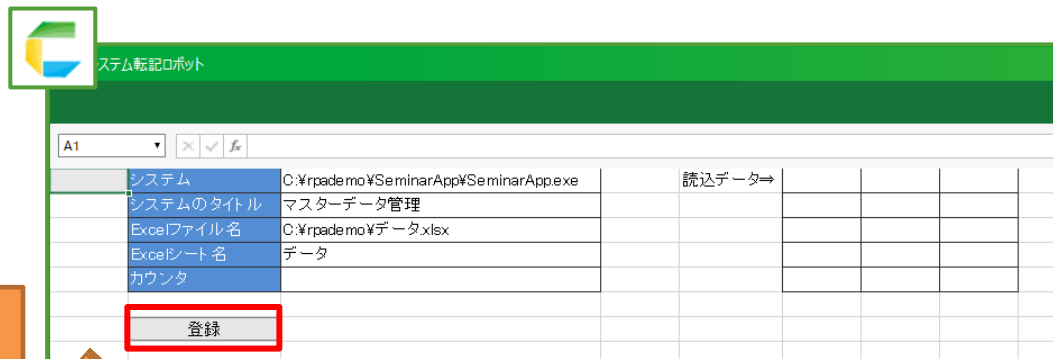


1. Excelからのデータ自動転記ロボット：全体の概要図

EXCELファイルのデータを、基幹システムなどに転記する作業を自動化します。



1. Excelからのデータ自動転記ロボット：処理の流れ

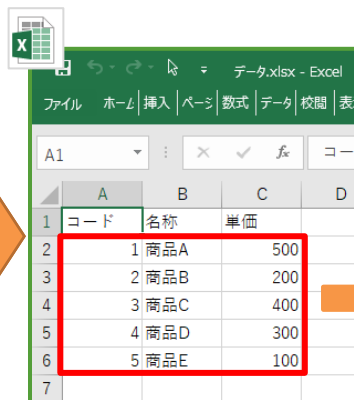


以降の処理は
自動で実行されます。

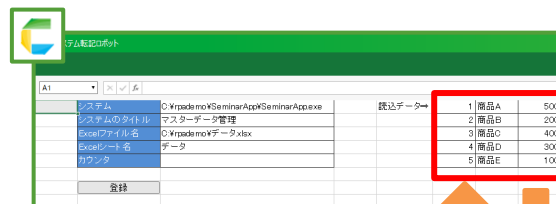
1. 転記ロボットの「登録」ボタンをクリックする



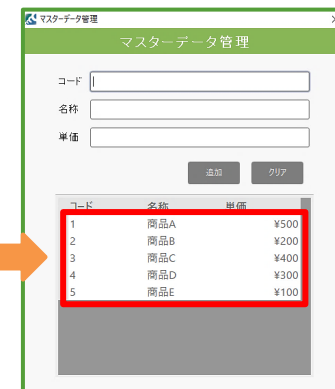
2. 転記先システムを
起動する



3. 転記元Excelのデータを
転記ロボットに読み込む



4. 転記ロボットに読み込んだデータを
転記先システムに転記する



目次

1. EXCELからのデータ自動転記ロボット
 - 1-1. アプリを作成する
 - 1-2. シートを作成する
 - 1-3. アクションセットを作成する
 - 1-3-1. 転記先システムを起動する
 - 1-3-2. EXCELファイルを読み込む
 - 1-3-3. データを転記する
 - 1-3-4. 登録
 - 1-4. アプリを公開して利用する

1 - 1. アプリを作成する

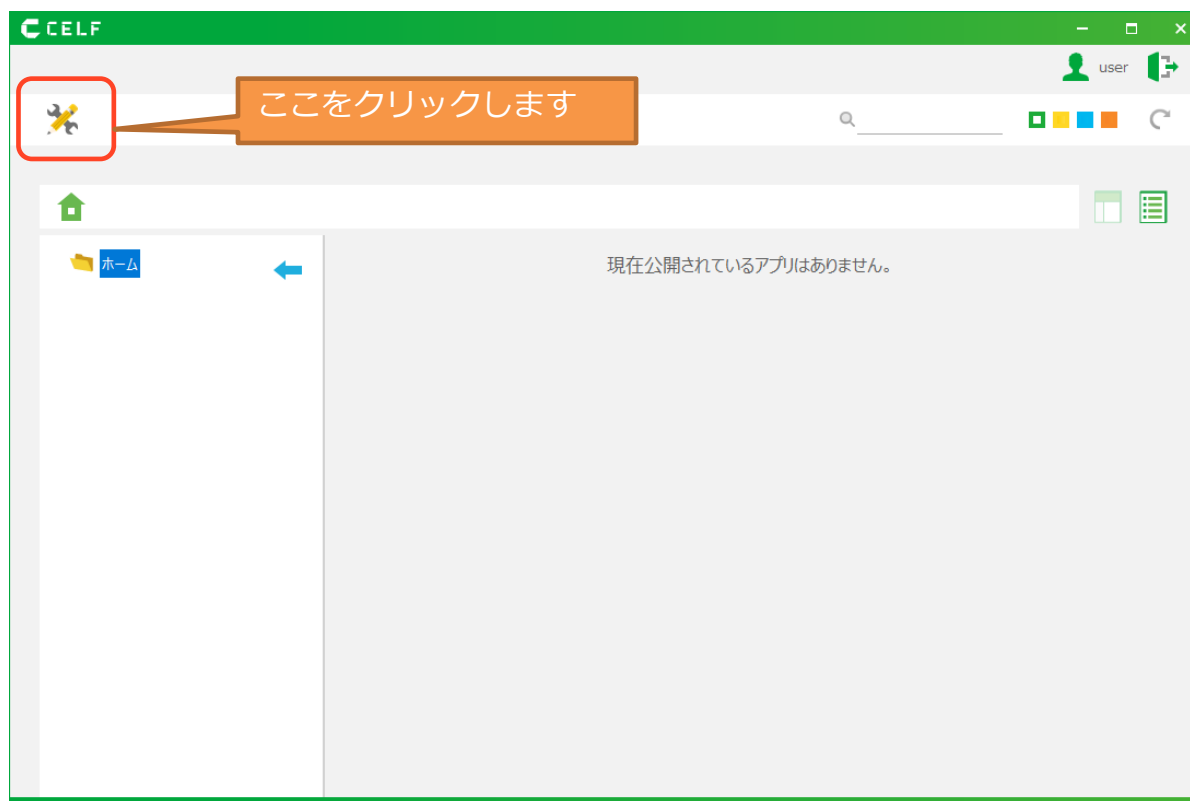




アプリの作成

転記ロボットを作成するには最初に「アプリ」の作成から始めてください。本セミナーではアプリを一から作成する「新規作成」の方法で説明します。

①管理アイコンをクリックします。





アプリの作成

② 「新規アプリ作成」 ボタンをクリックし、アプリを作成します。



The screenshot displays the CELF application management interface. A red box highlights the '+新規アプリ作成' button in the top-left corner. A red arrow points from this button to the '新規アプリ作成' dialog box. The dialog box contains the following elements:

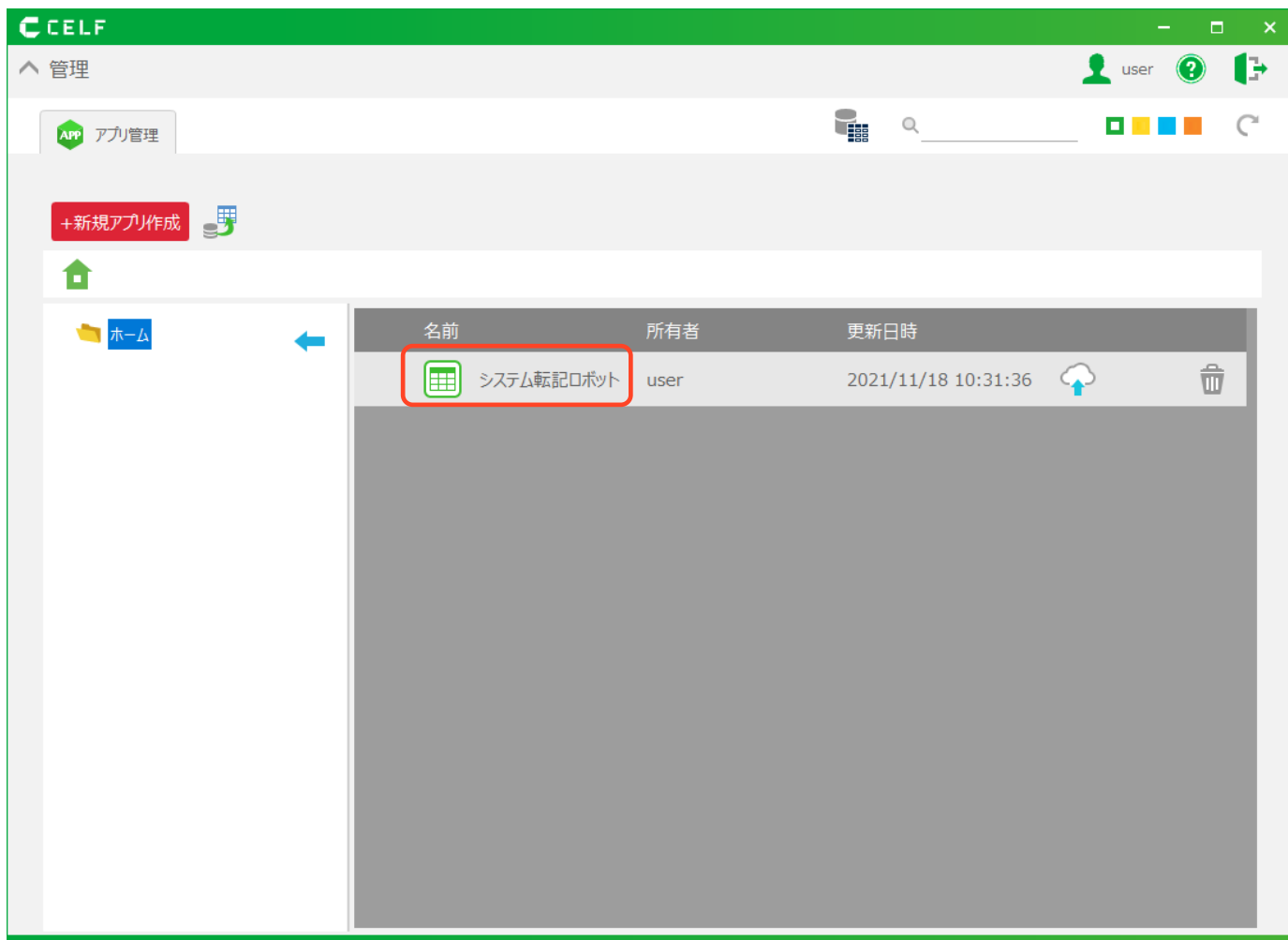
- A text input field for the app name, containing 'システム転記ロボット'.
- Two radio buttons: 'はじめから作成' (selected) and 'Excelファイルから作成'.
- A 'ファイルを選択' button and a message: 'ファイルが選択されていません。(xlsx形式で最大1MB)'.
- A checkbox labeled '作成するアプリとテーブルの名前の先頭に共通の文字列をつける' with the text 'NHL' in the adjacent input field.
- 'OK' and 'キャンセル' buttons at the bottom.

An orange callout box on the right side of the dialog contains the text: 「システム転記ロボット」と入力し、はじめから作成にチェックを入れます



アプリの作成

③ 「システム転記ロボット」が作成されていることを確認します。



1 - 2. シートを作成する



1 - 2. シートを作成する

作成するレイアウト

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		システム	C:\¥rpademo¥SeminarApp¥SeminarApp.exe		読込データ⇒				
2		システムのタイトル	マスターデータ管理						
3		Excelファイル名	C:\¥rpademo¥データ.xlsx						
4		Excelシート名	データ						
5		カウンタ							
6									
7		登録							
8									

ダウンロードしたコンテンツの情報
ファイル名やシート名など

Excelから転記先システムへのデータ
転記を開始するボタン

Excelから転記先システムに転記する
データを一時的に保存する領域

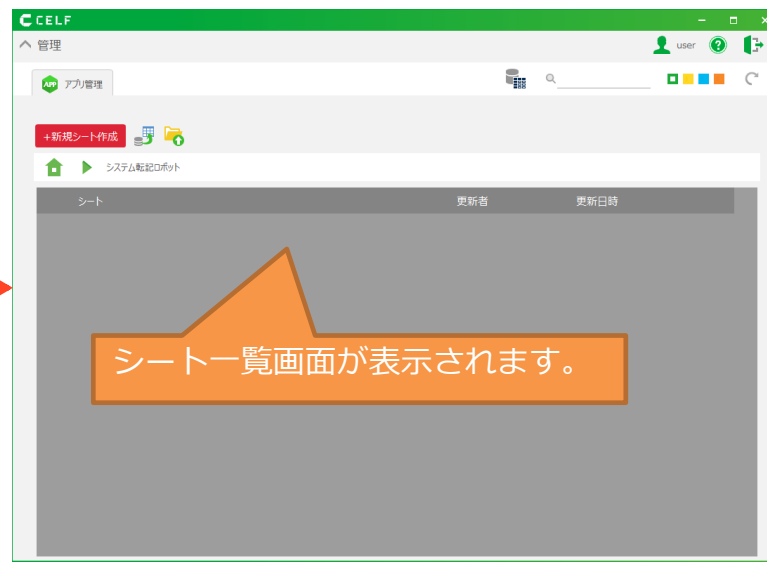
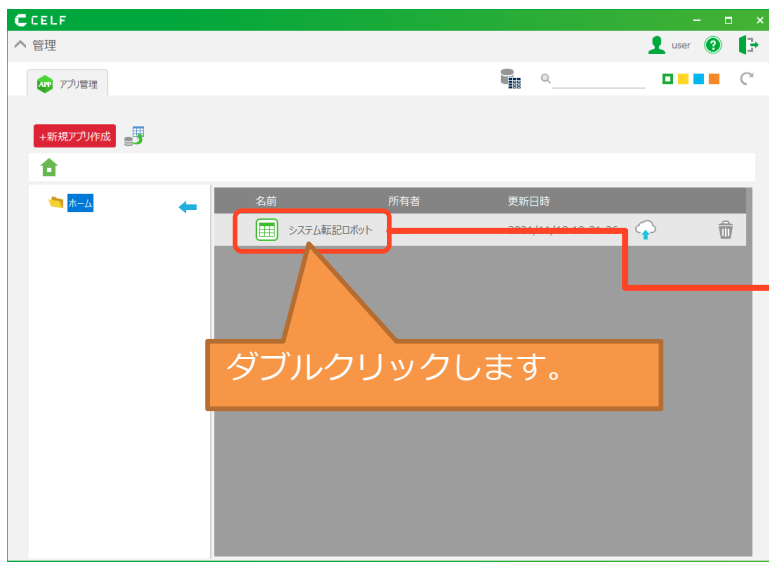


シートの作成（新規作成）

アプリ作成後は、アプリで利用するシート（画面）を作成してください。
今回のアプリでは「新規作成」の方法で作成します。



① 「システム転記ロボット」をダブルクリックします。

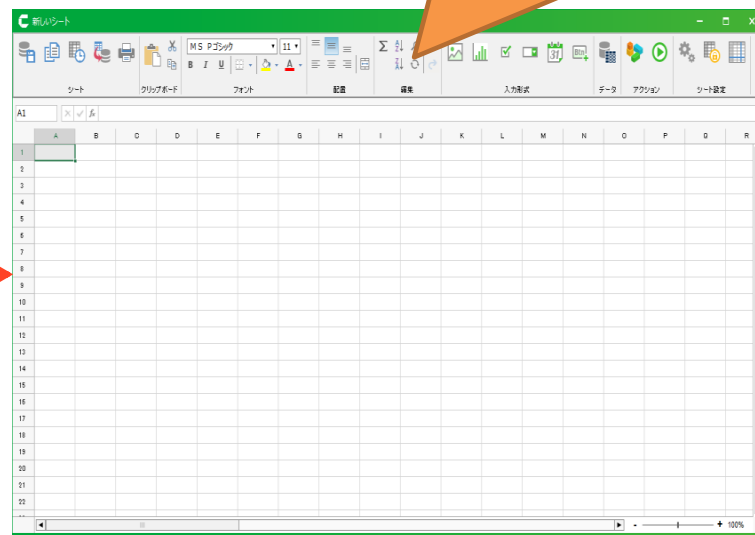
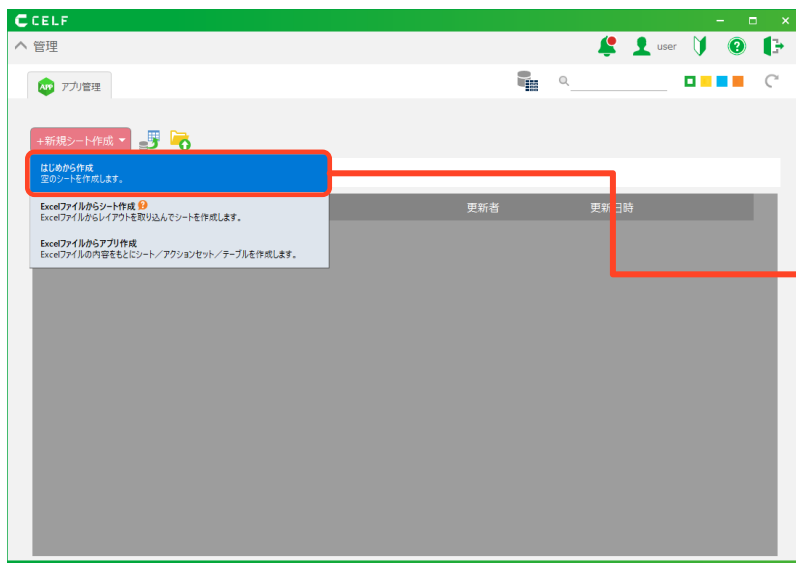




シートの作成（新規作成）

②シート一覧画面で「新規シート作成」をクリックします。

新規シートが表示されます。





シートの作成（新規作成）

- ③シートのレイアウトを編集します。
・最初に文字を入力します。

B1セルから下に向かって、以下の文字を入力して下さい。

システム
システムのタイトル
Excelファイル名
Excelシート名
カウンタ

	A	B	C	D	E	F
1		システム	C:\%rpdemo%\SeminarApp\		読込データ⇒	
2		システムの	マスターデータ管理			
3		Excelファイル名	C:\%rpdemo%\データ.xlsx			
4		Excelシート名	データ			
5		カウンタ				
6						

E1セルに以下の文字を入力して下さい。
読込データ⇒

ダウンロードしたコンテンツの情報を入力します。
C1セルから下に向かって、以下の文字を入力して下さい。
C:\%rpdemo%\SeminarApp\SeminarApp.exe
マスターデータ管理
C:\%rpdemo%\データ.xlsx
データ





シートの作成（新規作成）

- セルの罫線と背景色、文字色を設定します。



新しいシート

MS Pゴシック 11

B I U 罫線 塗りつぶし A

シート クリップボード フォント 配置 編集 名前管理 入力形式 データ アクション シート設定 ヘルプ

B1 システム

システム C:\rpadm\Seminar\読込データ→
 システムのマスターデータ管理
 Excelファイル C:\rpadm\データ.xlsx
 Excelシートデータ
 カウンタ

MS Pゴシック 11

B I U 罫線 塗りつぶし A

罫線 背景色 文字色

左から罫線、背景色、文字色となります。

リボンメニュー「フォント」から罫線、背景色、文字色の選択ボタンをクリックし、B1:C5セル範囲とF1:H5セル範囲の罫線と背景色、文字色を設定します。

データの個数: 5 100%



シートの作成（新規作成）

- レイアウトを調整するため、列の幅を変更します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		システム	C:\rpdemo¥SeminarApp¥SeminarApp.exe		読込データ⇒				
2		システムの	マスターデータ管理						
3		Excelファイ	C:\rpdemo¥データ.xlsx						
4		Excelシート	データ						
5		カウンタ							
6									



	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		システム	C:\rpdemo¥SeminarApp¥SeminarApp.exe		読込データ⇒				
2		システムのタイトル	マスターデータ管理						
3		Excelファイル名	C:\rpdemo¥データ.xlsx						
4		Excelシート名	データ						
5		カウンタ							
6									

Excelと同じように幅を調整したい列の見出しにカーソルを持っていきます。
列の境目にカーソルを置くと矢印が出てくるので好きな幅までドラッグします。





シートの作成（新規作成）

- ④処理を開始するためのボタンを配置します。
 リボンメニューの「入力形式」から「ボタン」をクリックし、B7セルに配置します。



新しいシート

MS Pゴシック 11

シート クリップボード フォント 配置 編集 名前管理 入力形式 データ アク

クリックします。

B7

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1		システム	C:\%rpdemo%\SeminarApp%\SeminarApp.exe		読込データ⇒									
2		システムのタイトル	マスターデータ管理											
3		Excelファイル名	C:\%rpdemo%\データ.xlsx											
4		Excelシート名	データ											
5		カウンタ												
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														
24														

テキスト入力

ボタン名を入力してください 登録

OK キャンセル

B7セルにフォーカスを当てます。

ボタン名を入力し、OKをクリックします。
ボタン名：登録

100%



シートの作成（新規作成）

- ⑤ここまで作成したシートを保存します。リボンメニューの「シート」ボタンから「保存」を選択します。



新しいシート

MS Pゴシック 11

保存 このシートを保存します。

複製を作成
このシートの内容を転記した新しいシートを作成します。

シートの過去のバージョンから内容を反映
このシートの内容を過去に公開されたタイミングで保存されている以前のバージョンの内容に戻します。

エクスポート
このシートを現在使用しているPC上にファイルとして保存します。ファイル形式はExcelブック(.xlsx、.xlsm)またはCELF独自のデータファイル形式(.clf)が選択できます。

印刷
シートを印刷します。

シート保存

保存先のアプリ システム転記ロボット

シート名を入力してください メイン画面

OK キャンセル

シート名を入力し、OKをクリックします。
シート名：メイン画面

1 - 3. アクションセットを作成する

- 1 - 3 - 1. 転記先システムを起動する
- 1 - 3 - 2. Excelファイルを読み込む
- 1 - 3 - 3. データを転記する
- 1 - 3 - 4. 登録



CEL F

1-3-1. 転記先システムを起動する

実現したい動き

転記先システム「マスターデータ管理」を起動する。



転記ロボット
(CELF)

Excelからの
データ自動転記ロボット



起動する

転記先システム

マスターデータ管理

マスターデータ管理

コード

名称

単価

追加 クリア

コード	名称	単価
-----	----	----

～アクションセットを作成する～

これから以下の順にアクションセットの作成を説明していきます。

- ・ **画面レイアウト**

アクションセットを紐づけるボタンを追加します。

- ・ **アクションセット作成**

CELFに用意されているアクションを組み合わせ、アクションセットを作成します。

- ・ **実行タイミング設定**

作成したアクションセットを実行するタイミングを設定します。

- ・ **動作確認**

アプリをテスト実行し、思った通りの動きをするか確認します。



1 - 3 - 1. 転記先システムを起動する

①アクションセットの作成を開始します。

リボンメニューの「アクション」から「アクションセット設定」をクリックし、「新規アクションセット作成」ボタンで新しいアクションセットの作成を開始します。



The screenshot shows the software interface with the 'アクション' (Action) ribbon selected. The 'アクションセット設定' (Action Set Settings) button is highlighted with a red box. Below it, the '+新規アクションセット作成' (New Action Set Creation) button is also highlighted. The dialog box 'アクションセットの新規作成' (New Action Set Creation) is open, showing the input field for the action set name and the '転記先システムを起動する' (Start Transfer System) button, which is highlighted with a red box. The 'OK' button is also highlighted. An orange callout box at the bottom right contains the following text:

アクションセット名を入力し、OKをクリックします。
ボタン名：転記先システムを起動する



1 - 3 - 1. 転記先システムを起動する

- ②転記先システムを起動するアクションセットを作成します。
 CELF以外のシステムを起動したいときは、「アプリケーションを起動する」アクションを利用します。

アクションセット名：転記先システムを起動する
 動作詳細：転記先システムを起動する
 利用アクション：ロボットアクション 上から16番目



セルの値を参照する数式を直接入力する以外に、「シートから選択」をクリックしてセルを選択することもできます。

起動する転記先システムが設定されているC1セルを指定します。

	B	C	D
1	システム	C:\rpdemo\SeminarApp\SeminarApp.exe	読
2	システムのタイトル	マスターデータ管理	
3	Excelファイル名	C:\rpdemo\データ.xlsx	
4	Excelシート名	データ	
5	カウンタ		
6			
7	登録		
8			

～ファイルのパスを直接設定する～

転記先システムのファイルパスは直接指定することもできます。

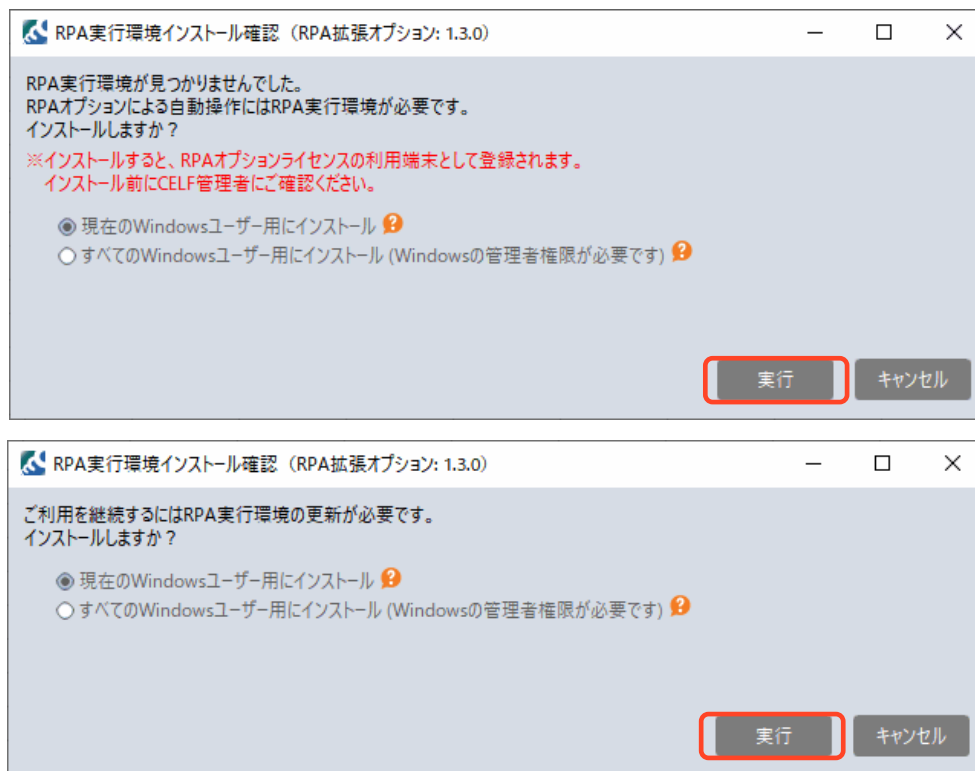
「対象のファイルを選択します」をクリックするとファイル選択することができます。

起動する転記先システムのファイルパスを指定します。

ダウンロードしたコンテンツの「SeminarApp.exe」を選択し、「開く」ボタンをクリックします。

～RPA環境のインストールとバージョンアップ方法～

次にテスト実行を開始しますが、初めて「ロボット」アクションを使った場合、CELF RPA環境のインストールまたはバージョンアップを促す画面が表示されます。「実行」ボタンをクリックしてインストールまたはバージョンアップを実施して下さい。



詳しくは、CELF RPA HELPでご確認下さい。

[RPA実行環境のインストールとバージョンアップ方法](#)



1 - 3 - 1. 転記先システムを起動する

③テスト実行し、期待通りの動きをするか確認します。



The screenshot shows the 'アクションセット設定' (Action Set Configuration) window. The 'ロボット' (Robot) tab is active. A dialog box titled 'CELFメッセージ' (CELF Message) is displayed, containing the text 'アクションセットを実行します。' (Execute Action Set) and two buttons: 'OK' and 'キャンセル' (Cancel). The 'OK' button is highlighted with a red box. A red arrow points from the 'OK' button in the dialog box to the 'テスト実行' (Test Execution) button in the configuration window. An orange callout box at the bottom contains the text: 「OK」ボタンをクリックすると、テスト実行を開始します。 ※テスト実行が開始されるまで時間がかかる場合があります。



1 - 3 - 1. 転記先システムを起動する

④転記先システムが起動し、テスト実行が完了したことを示すメッセージが表示されます。

アクションセット設定

セル操作 シート操作 データ操作 制御 ファイル操作 SQL ロボット

マスターデータ管理

マスターデータ管理

コード

名称

単価

追加 クリア

コード 名称 単価

テスト実行 順次実行

転記先システムが起動したことを確認したら、右上の「X」ボタンでシステムを終了します。

アプリケーションを起動する

アプリケーションを起動する が実行されたら

1

アプリケーションを起動する

実行するアプリまたは開くファイル =C1

起動オプション

ウィンドウを 変更しない

表示されたウィンドウの位置と大きさを次のセルにセットする

アプリ起動後 秒待ってから領域を取得する

確認

実行が完了しました。アクションセットによって行われた変更を元に戻しますか？

はい(Y) いいえ(N)

メッセージ「はい」ボタンをクリックすると、シート内のセルなどがアクションにより変更されていても元に戻ります。

動作が確認できたら、「OK」ボタンをクリックしてアクションセットの作成を終了します。最後に、シートを保存して下さい。同時にアクションセットも保存されます。

OK キャンセル 適用



1 - 3. アクションセットを作成する

- 1 - 3 - 1. 転記先システムを起動する
- 1 - 3 - 2. Excelファイルを読み込む
- 1 - 3 - 3. データを転記する
- 1 - 3 - 4. 登録

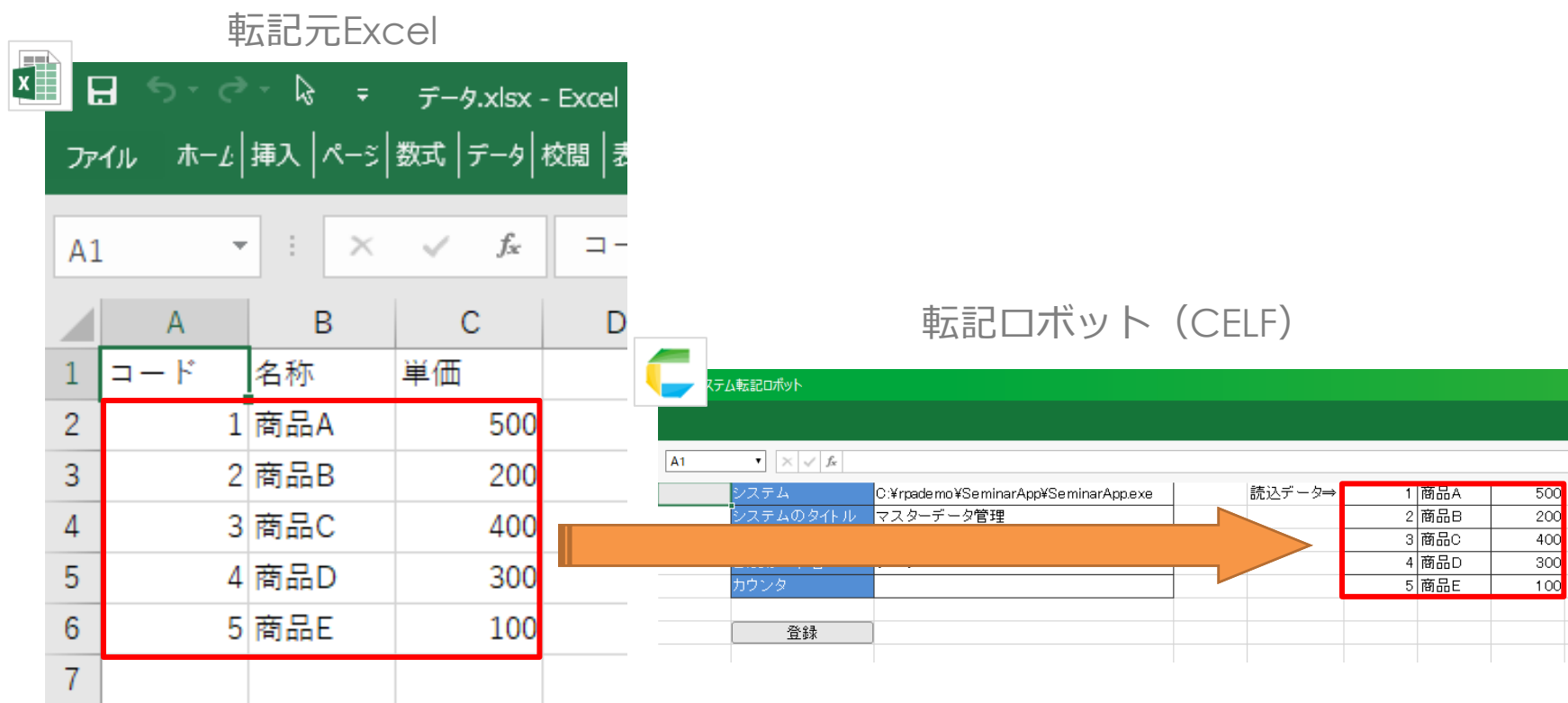


CELIF

1 - 3 - 2. EXCELファイルを読み込む

実現したい動き

EXCELファイルのデータをCELfのシートに読み込みます。





1 - 3 - 2. EXCELファイルを読み込む

①シートにEXCELファイルのデータを読み込むアクションセットを作成します。

アクションセット名 : EXCELファイルを読み込む

動作詳細 : EXCELファイルのデータをシートに読み込みます

利用アクション : ファイル操作タブ 上から8番目



EXCELファイル名が設定されているC3セルを指定します。

EXCELのシート名が設定されているC4セルを指定します。

EXCELのデータを読み込み、貼り付けるシートの起点となるF1セルを指定します。

EXCELの読み込むデータを範囲(A2:C6)で指定します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		システム	C:\rpademo\SeminarApp\SeminarApp.exe						
2		システムのタイトル	マスターデータ管理						
3		Excelファイル名	C:\rpademo\データ.xlsx						
4		Excelシート名	データ						
5		カウンタ							
6									
7		登録							
8									

	A	B	C	D	E	F
1	コード	名称	単価			
2	1	商品A	500			
3	2	商品B	200			
4	3	商品C	400			
5	4	商品D	300			
6	5	商品E	100			



1 - 3 - 2. EXCELファイルを読み込む

②テスト実行し、EXCELファイルのデータ読み込みの動作確認をします。



テスト実行前に、結果が隠れないようにアクションセット設定画面を小さくして、ずらしておきましょう。

EXCELのデータが、読み込まれることを確認します。

メッセージ「はい」ボタンをクリックして下さい。

クリックしてテスト実行します。

以下のファイルをアップロードする ?

- ポップアップで選択する
- 指定パスを使用する

登録された ID を次のセルにセットする ?

ID のファイルをダウンロードして以下に保存する ?

- ポップアップで選択する
- 指定パスを使用する

ID のファイルを削除する ?

CSV ファイルのデータを を起点にセット

- ポップアップで選択する
- 指定パスを使用する

ファイルの文字コード Shift-JIS

セル のデータを以下に CSV ファイルとして保存する ?

- ポップアップで選択する
- 指定パスを使用する

ファイルの文字コード Shift-JIS

ファイルダイアログを開く ?

ファイルダイアログの種類 既存のファイルを開く

ファイルの拡張子

選択されたファイルのパスをセル にセットする

アクションセット [EXCELファイルを読み込む] が実行されたら ?

- Excel ファイルのデータをセルにセットする ?
 - ポップアップで選択する
 - 指定パスを使用する
 読み取り対象 Excel シート名 =C4

 セット先指定 +

 セル F1 を起点に Excel ファイルの A2:C6 をセットする

実行が完了しました。アクションセットによって行われた変更を元に戻しますか?

はい(Y) いいえ(N)

テスト実行 順次実行 OK キャンセル 適用

読込データ⇒	F	G	H	I
	1	商品A	500	
	2	商品B	200	
	3	商品C	400	
	4	商品D	300	
	5	商品E	100	

1 - 3. アクションセットを作成する

- 1 - 3 - 1. 転記先システムを起動する
- 1 - 3 - 2. Excelファイルを読み込む
- 1 - 3 - 3. データを転記する
- 1 - 3 - 4. 登録



CEL F

1-3-3. データを転記する

実現したい動き

CELLFのシートに読み込んだデータを転記先システム「マスターデータ管理」に転記する

転記ロボット (CELLF)

システム	C:\Yrpadmemo\SeminarApp\SeminarApp.exe	読込データ⇒
システムのタイトル	マスターデータ管理	1 商品A 500
Excelファイル名	C:\Yrpadmemo\データ.xlsx	2 商品B 200
Excelシート名	データ	3 商品C 400
カウンタ		4 商品D 300
		5 商品E 100

転記先システム

マスターデータ管理

マスターデータ管理

コード

名称

単価

追加 クリア

コード	名称	単価
1	商品A	¥500
2	商品B	¥200
3	商品C	¥400
4	商品D	¥300
5	商品E	¥100

1-3-3. データを転記する

実現したい動き

転記先システムに対して、以下の操作を繰り返して1行ずつ転記します。

転記ロボット (CELF)

転記先システム

1行ずつ転記先システムを操作し、データを転記する。読みデータの行数分繰り返す。

CELFのシートに設定されている値を「TABキー」でフォーカスを移動しながら入力する。

入力完了後、「追加」ボタンにフォーカスがあるので「Enterキー」で登録する。

最後に「Enter」キーを押して完了です。

システム	C:\rpade mo\SeminarApp\SeminarApp.exe	読みデータ	1 商品A	500
システムのタイトル	マスターデータ管理		2 商品B	200
Excelファイル名	C:\rpade mo\データ.xlsx		3 商品C	400
Excelシート名	データ		4 商品D	300
カウンタ			5 商品E	100

マスターデータ管理
マスターデータ管理

コード 1
名称 商品A
500

追加 クリア

メッセージ
データを追加しました。
OK



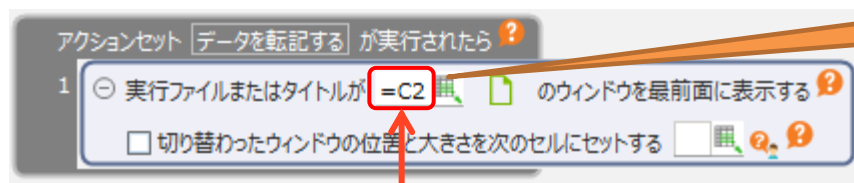
1 - 3 - 3. データを転記する

- ① 転記先システムを最前面に表示させます。
後の操作で必要となりますので、転記先システムを起動しておいてください。

アクションセット名：データを転記する

動作詳細：データを転記先システムに転記する

利用アクション：ロボットタブ 上から17番目



転記先システムのタイトルが設定されている
C2セルを指定します。



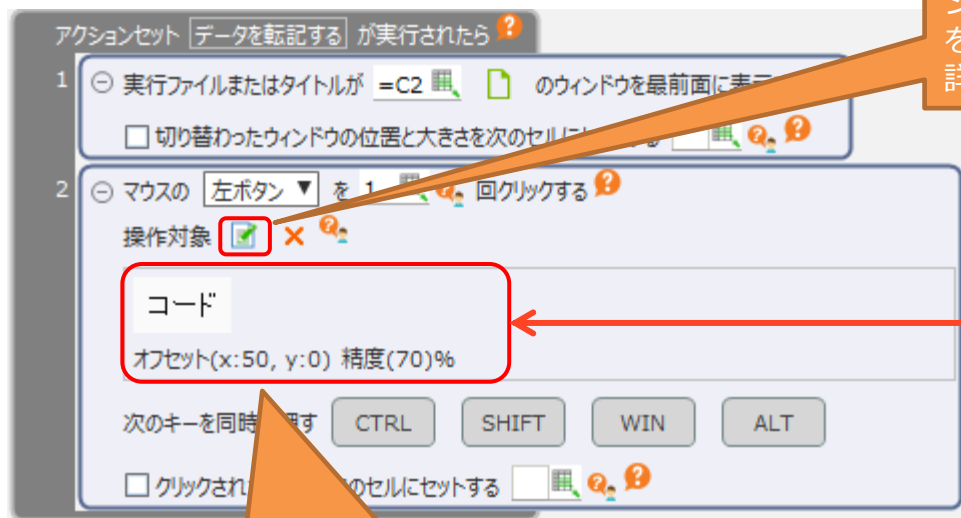
	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		システム	C:\rpademo\SeminarApp\SeminarApp.exe		読込データ⇒				
2		システムのタイトル	マスターデータ管理						
3		Excelファイル名	C:\rpademo\データ.xlsx						
4		Excelシート名	データ						
5		カウンタ							
6									
7		登録							
8									



1-3-3. データを転記する

- ② 「マウスの左ボタンを1回クリックする」アクションで、「コード」のテキストボックスをクリックすることでフォーカスを設定します。
 クリックする位置は、画像認識を利用して指定します。

利用アクション : ロボットタブ 上から1番目



「操作対象を選択」をクリックして、転記システムの「コード」のテキストボックスを指定します。
 詳細は次のページから説明します。





「コード」の画像を検索し、右方向に50ピクセル移動した場所を、マウスで1回左クリックする設定となっています。



～画像認識～

CELfには、マウスクリックやアプリ起動などをロボットに行わせる時に、その操作対象を設定する方法の1つに画像認識があります。

スクリーンショットやファイルで設定した画像を画面内で検索し、操作対象として認識させます。また、画像からの位置を指定して周辺の要素を操作することもできます。CELfでは、ロボットアクションに以下の記載がある場合、一部を除き画像認識が利用出来ます。

操作対象  × 

(設定されていません)

操作対象指定

画像 座標 領域

直近の画像検索結果を使用

画像から指定

検索範囲

画面全体から検索する

直接入力

X座標 Y座標 幅 高さ

セル指定

画像一致判定精度 70 %

操作する位置 X座標 Y座標

ファイルを選択

スクリーンショットを取る

ループ処理の画像検索結果を使用

設定 キャンセル

Google Chrome Outlook

Microsoft Edge Dropbox

例えば、デスクトップ上のアイコンを操作したい時は上記のようにスクリーンショットを設定します。

画像認識の詳細については、CELf RPA HELPでご確認ください。

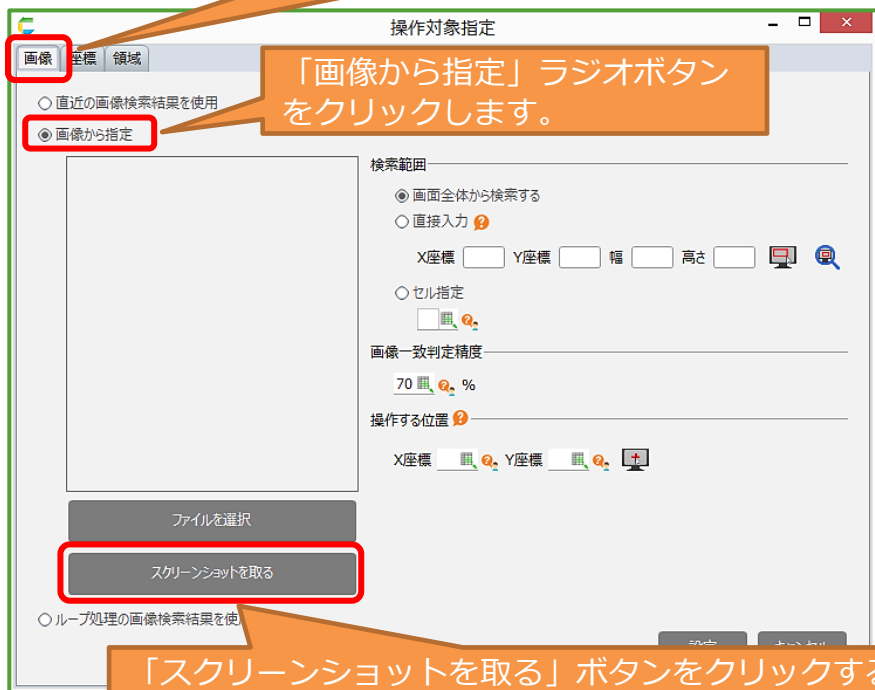
画像が表示されている位置で操作する



1-3-3. データを転記する

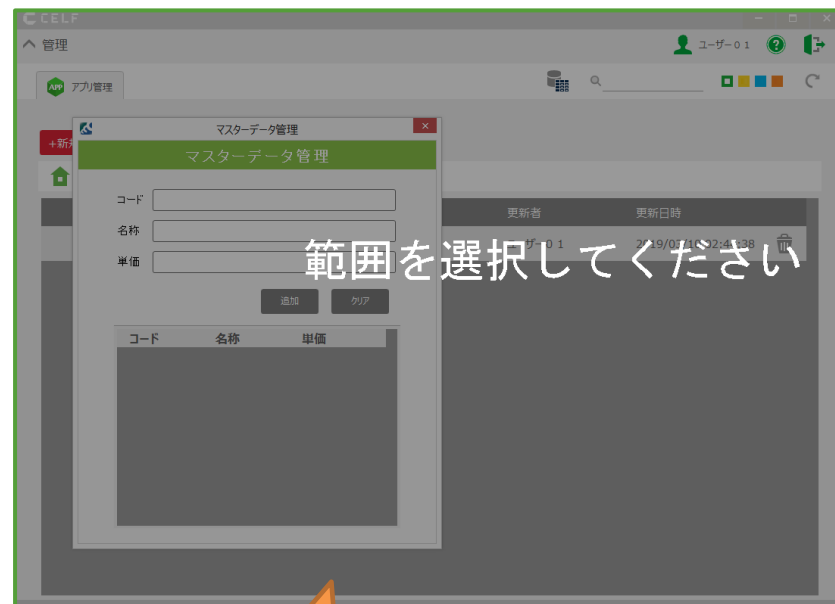
- 「操作対象を選択」をクリック後、「操作対象指定」ダイアログが表示されます。

「画像」タブをクリックします。



「画像から指定」ラジオボタンをクリックします。

「スクリーンショットを取る」ボタンをクリックすると右図のように画面全体が暗くなり「範囲を選択してください」と表示されます。



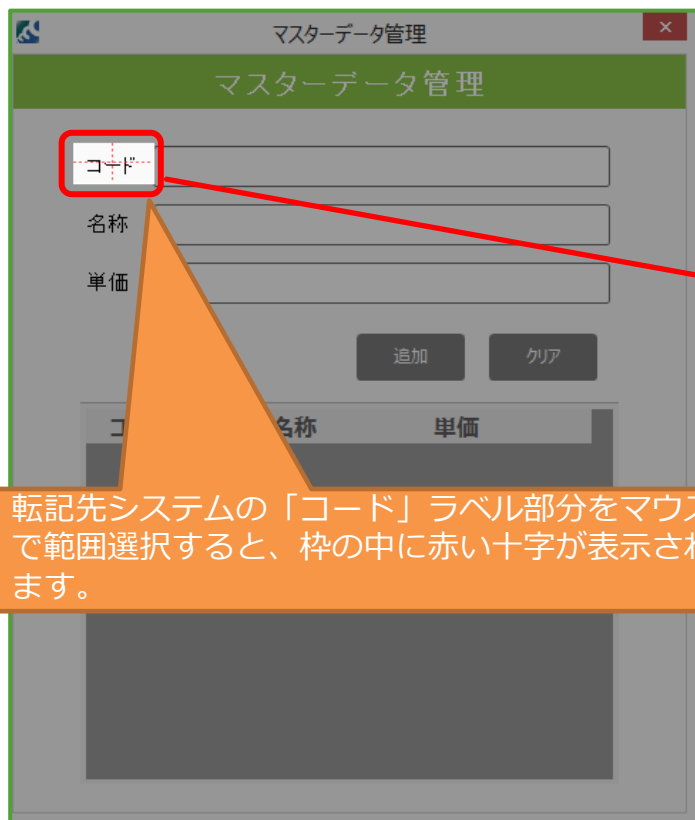
この状態になったら、転記先システムの「コード」を選択します。
次のページで範囲選択の方法を説明します。





1-3-3. データを転記する

- 「コード」ラベルの画像を設定し、クリックしたいテキストボックスまでの位置を指定して操作対象とします。



転記先システムの「コード」ラベル部分をマウスで範囲選択すると、枠の中に赤い十字が表示されます。


「操作する位置」の「X座標」に「50」を、「Y座標」には「0」を指定します。




最後に「設定」をクリックして、操作対象の指定が完了します。




～操作する位置の確認方法～

「操作する位置」の右側にある  ボタンをクリックすると、「操作位置設定」画面が表示され、現在の操作対象を確認できます。

「操作位置設定」画面の下にある「操作する位置」を変更することで操作対象を変更することができます。



指定された画像が見つかった場所が赤く表示されます。



現在の操作位置が「+」で表示されます。

変更すると操作位置の「+」も追従して移動します。

操作する位置 X: 50 Y: 0

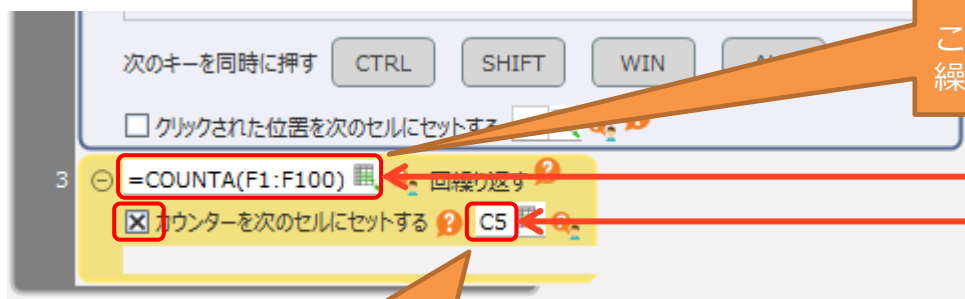


1-3-3. データを転記する

- ③ 繰り返し処理を設定します。
読み込んだデータを1行ずつ処理するための繰り返し処理です。
「 回繰り返す」アクションを使用します。



利用アクション : 制御タブ 上から3番目



読込データの行数を取得するために、以下の関数を入力します。
=COUNTA(F1:F100)
これにより、読込データの行数分、処理が繰り返されます。

チェックボックスをONにして
C5セルを指定します。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1		システム	C:\rpdemo\SeminarApp\SeminarApp.exe		読込データ⇒	1	商品A	500
2		システムのタイトル	マスターデータ管理			2	商品B	200
3		Excelファイル名	C:\rpdemo\データ.xlsx			3	商品C	400
4		Excelシート名	データ			4	商品D	300
5		カウンタ				5	商品E	100
6								
7		登録						

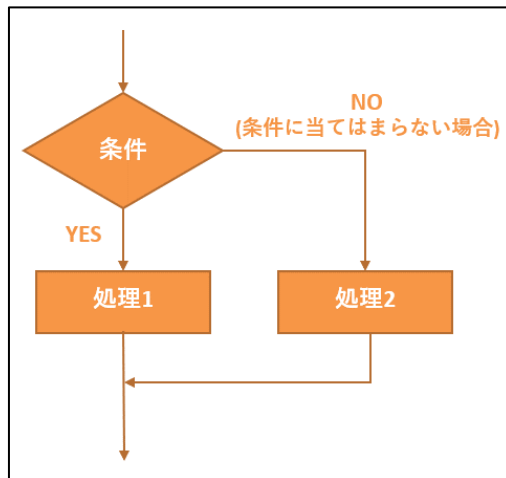


～制御について～

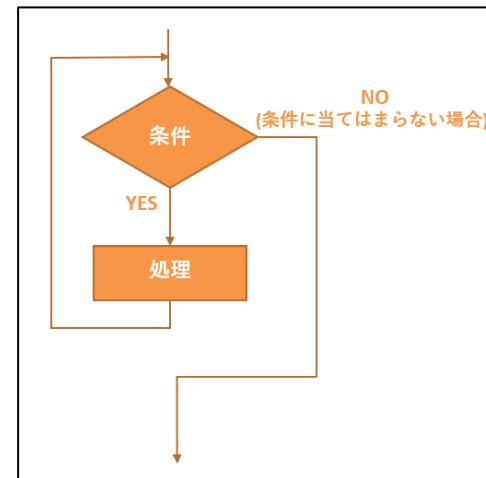
アクションセットはアクションを上から順番に実行します。
この構造を「順次」といい、「順次」の流れを変えたい時には「分岐」や「反復」という制御を利用します。一般的にプログラムは「順次」「分岐」「反復」を組み合わせて作られており、この制御のことを「制御構文」といいます。
CELFではこのような制御を制御アクションを利用して実現できます。

制御構文の流れ

分岐
(条件に応じて次の処理を決める)



反復
(条件が満たされるまで処理を繰り返す)



「制御構文」について「プログラミングが学べるIT講座」でより詳しく解説しています。

～繰り返し処理について～

読み込んだデータを、転記先システムに転記する繰り返し処理について説明します。

開始行から下方向に1行ずつ移動し、読込データがある間は転記処理を行い、なければ繰り返し処理を終了するようにします。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1		システム	C:\rpademo\SeminarApp\SeminarApp.exe		読込データ	1	商品A	500
2		システムのタイトル	マスターデータ管理			2	商品B	200
3		Excelファイル名	C:\rpademo\データ.xlsx			3	商品C	400
4		Excelシート名	データ			4	商品D	300
5		カウンタ				5	商品E	100
6								
7		登録						

この例であれば、F列に5個のデータがあるので5回繰り返すことになります。

1行目で転記処理を行う
↓
2行目で転記処理を行う
↓
3行目で転記処理を行う
↓
4行目で転記処理を行う
↓
5行目で転記処理を行う
↓
繰り返し処理を終了

～繰り返し処理について～

繰り返しの制御は「回繰り返す」アクションを使います。
読み込んだデータの件数分だけ繰り返したいので、COUNTA関数を使用します。

読込データの件数を算出するため、COUNTA関数を用いてF列の空文字以外のセルの数を取得します。
※今回は5回処理が繰り返されます。

カウンタに設定したC5セルには、現在の繰り返し回数がセットされます。
1行目処理中は1、2行目処理中は2、...とセットされます。
このカウンタは、以降の設定で行番号を指定するために使用します。

	A	B	D	E	F	G	H	
1		システム	C:\rpademo¥SeminarApp.exe		読込データ	1	商品A	500
2		システムのタイトル	マスターデータ管理			2	商品B	200
3		Excelファイル名	C:\rpademo¥データ.xlsx			3	商品C	400
4		Excelシート名	データ			4	商品D	300
5		カウンタ				5	商品E	100
6								
7		登録						



1-3-3. データを転記する

- ④ 転記先システムに「コード」を転記します。
次に、「名称」のテキストボックスにフォーカスを移動します。

利用アクション : ロボットタブ 上から13番目
利用アクション : ロボットタブ 上から8番目

前のアクションで「コード」のテキストボックスにフォーカスが当たっているため、そのままF列の値を貼り付けます。
=UTIL.CELLV(C5, "F")
※カウンタのC5が示す行のF列の値が転記されます。

この入力欄で「TABキー」を押します。

左のアクションにより「名称」にフォーカスが移動します。

	D	E	F	G	H
1	App%SeminarApp.exe	読込データ⇒	1	商品A	500
2			2	商品B	200
3			3	商品C	400
4			4	商品D	300
5			5	商品E	100

マスターデータ管理

マスターデータ管理

コード 1

名称

単価

追加 クリア



～UTIL.CELLV関数について～

UTIL.CELLV関数は、行番号と列番号（または列名）によって指定されるセルの値を返すCELLF独自の関数です。主にカウンタを用いた繰り返しの処理の中で、セルの値を行の上から順に、または列の左から順に取得したい場合に使用します。

使用方法について

=UTIL.CELLV(行番号, 列番号または列名)

使用例

例1) C9セルの値を取得したい

⇒ UTIL.CELLV(9, "C") または UTIL.CELLV(9, 3)

例2) 繰り返し処理の中でC列の値を上から順に取得したい

⇒ UTIL.CELLV(G3, "C") または UTIL.CELLV(G3, 3)

G3セルの値をカウントアップさせることで、C列の値を上から順に取得します

例3) 繰り返し処理の中で9行目の値を左から順に取得したい

⇒ UTIL.CELLV(9, G3)

G3セルの値をカウントアップさせることで、9行目の値を左から順に取得します



1-3-3. データを転記する

- ⑤ 転記先システムに「名称」を転記します。
次に、「単価」のテキストボックスにフォーカスを移動します。

利用アクション : □ ボットタブ 上から13番目
利用アクション : □ ボットタブ 上から8番目

前のアクションで「名称」のテキストボックスにフォーカスが当たっているため、そのままG列の値を貼り付けます。
=UTIL.CELLV(C5, "G")
※カウンタのC5が示す行のG列の値が転記されます。

1 回入力する
□ キーをタイプされた位置を次のセルにセットする

6 文字列を貼り付ける
操作対象 ×
(設定されていません)
次の文字列を貼り付ける =UTIL.CELLV(C5, "G")
□ 文字列を貼り付けられた位置を次のセルにセットする

7 キーをタイプする
操作対象 ×
(設定されていません)
◎ 次のキーを入力する {tab} ×
次のキーを同時に押す CTRL SHIFT WIN ALT
○ 次の文字列 (半角英数記号のみ) を入力する
1 回入力する
□ キーをタイプされた位置を次のセルにセットする

この入力欄で「TABキー」を押します。

左のアクションにより「単価」にフォーカスが移動します。

	D	E	F	G	H
pp¥SeminarAppexe		読込データ⇒	1	商品A	500
			2	商品B	200
x			3	商品C	400
			4	商品D	300
			5	商品E	100

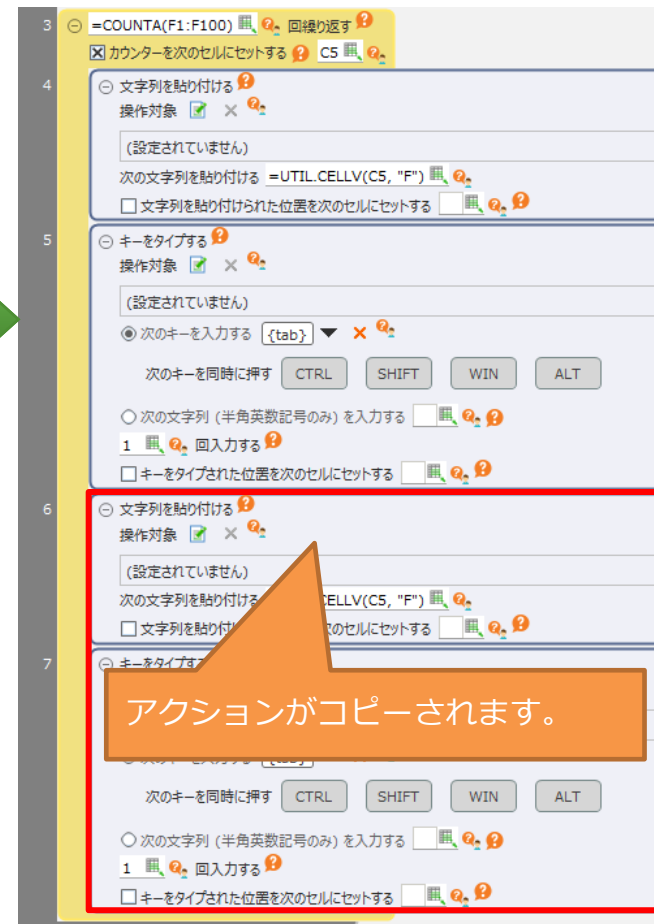
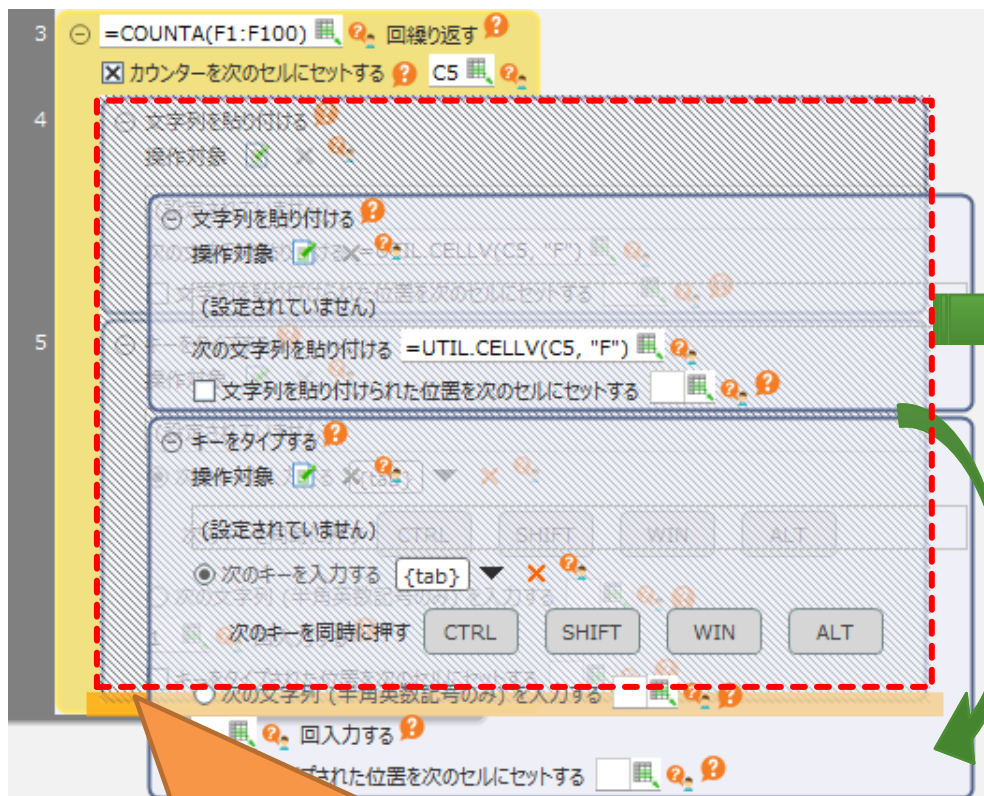
コード 1
名称 商品A
単価 |

追加

クリア

～アクションのコピー～

同じアクションを配置する場合、コピーして使用することができます。



アクションがコピーされます。

コピーしたいアクションを「Ctrl」キーを押したまま選択し、マウスをドラッグします。背景色がオレンジ色になったら左ボタンを離します。



1-3-3. データを転記する

- ⑥ 転記先システムに「単価」を転記します。
次に、「追加」ボタンにフォーカスを移動します。

利用アクション : □ ボットタブ 上から13番目
利用アクション : □ ボットタブ 上から8番目

前のアクションで「単価」のテキストボックスにフォーカスが当たっているため、そのままH列の値を貼り付けます。
=UTIL.CELLV(C5, "H")
※カウンタのC5が示す行のH列の値が転記されます。

1 1 回入力する ?

キーをタイプされた位置を次のセルにセットする

8

○ 文字列を貼り付ける ?

操作対象 × ?

(設定されていません)

次の文字列を貼り付ける =UTIL.CELLV(C5, "H")

文字列を貼り付けられた位置を次のセルにセットする

9

○ キーをタイプする ?

操作対象 × ?

(設定されていません)

○ 次のキーを入力する {tab} × ?

次のキーを同時に押す CTRL SHIFT WIN ALT

○ 次の文字列 (半角英数記号のみ) を入力する

1 1 回入力する ?

キーをタイプされた位置を次のセルにセットする

この入力欄で「TABキー」を押します。

左のアクションにより「追加」ボタンにフォーカスが移動します。

	D	E	F	G	H
pp¥SeminarAppexe		読込データ⇒	1	商品A	500
			2	商品B	200
x			3	商品C	400
			4	商品D	300
			5	商品E	100

マ

×

コード 1

名称 商品A

単価 500

追加 クリア





1-3-3. データを転記する

- ⑦ 転記先システムの「追加」ボタンを押して、転記したデータを登録します。
その後、メッセージが表示されるので「OK」ボタンを押してメッセージを消します。

利用アクション : □ボットタブ 上から8番目
利用アクション : □ボットタブ 上から28番目

この入力欄で「ENTERキー」を押します。

1を指定します。
次の操作が可能になるまでに時間がかかる場合、「□秒待機する」アクションを用いて、指定した秒数、待機させることができます。

この入力欄で「ENTERキー」を押します。

マスターデータ管理

追加

コード	名称	単価
▶ 1	商品A	¥500

メッセージ

データを追加しました。

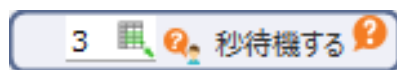
OK

～待機について～

待機はCELfに限らず、一般的なRPAでも安定稼働のための重要な機能です。

アクションセットに設定されたアクションは、待ち時間なく上から実行されます。そのためシステムの応答を待つ場合には、アクションの実行を待機させる必要があります。
例)

- ・システムの起動が完了するまで、転記処理の開始を待機させる。
- ・保存完了のメッセージが表示されるまで、ボタン押下のアクションを待機させる。



例えば、システムの起動後、「3秒待機」してから、処理を開始する

保存完了後、「完了メッセージの画像が現れるまで待機」してから、ボタン押下のアクションを行う





1 - 3 - 3. データを転記する

⑧転記が完了したことを知らせるメッセージを表示します。

利用アクション : 制御タブ 上から8番目



11 1 秒待機する

12 キーをタイプする
 操作対象 ×
 (設定されていません)
 次のキーを入力する {enter} ×
 次のキーを同時に押す CTRL SHIFT WIN ALT
 次の文字列 (半角英数記号のみ) を入力する
 1 回入力する
 キーをタイプされた位置を次のセルにセットする

13 以下のメッセージをポップアップで表示する
 完了しました。

「 回繰り返す」アクションの外側に「以下のメッセージをポップアップで表示する」アクションを配置します。

「完了しました。」の文字列を入力します。



1 - 3 - 3. データを転記する

- ⑨アクションセット設定の「OK」ボタンをクリックして、終了します。
本アクションセットの動作確認は、次のアクションセットの作成後に行います。



The screenshot shows the 'アクションセット設定' (Action Set Setting) window. The 'データ操作' (Data Operation) tab is active. The left sidebar lists various actions, and the main area shows the configuration for the selected action. An orange callout bubble with the text 'クリックします。' (Click here) points to the 'OK' button at the bottom right of the window.

1 - 3. アクションセットを作成する

- 1 - 3 - 1. 転記先システムを起動する
- 1 - 3 - 2. Excelファイルを読み込む
- 1 - 3 - 3. データを転記する
- 1 - 3 - 4. 登録



CEL F

1 - 3 - 4. 登録

実現したい動き

「登録」ボタンが押されたときに、これまで作成した3つのアクションセットを呼び出し、転記処理を実行する。

メイン画面

シート クリップボード フォント 配置 編集 名前管理 入力形式 データ

	A	B	C	D	E	F	G	H
1		システム	C:\rpdemo¥SeminarApp¥SeminarApp.exe		読込データ⇒			
2		システムのタイトル	マスターデータ管理					
3		Excelファイル名	C:\rpdemo¥データ.xlsx					
4		Excelシート名	データ					
5		カウンタ						
6								
7		登録						
8								

アクションセット 登録 が実行されたら ?

- シート (現在のシート) のアクション 転記先システムを起動する を実行する
- シート (現在のシート) のアクション EXCELファイルを読み込む を実行する
- シート (現在のシート) のアクション データを転記する を実行する



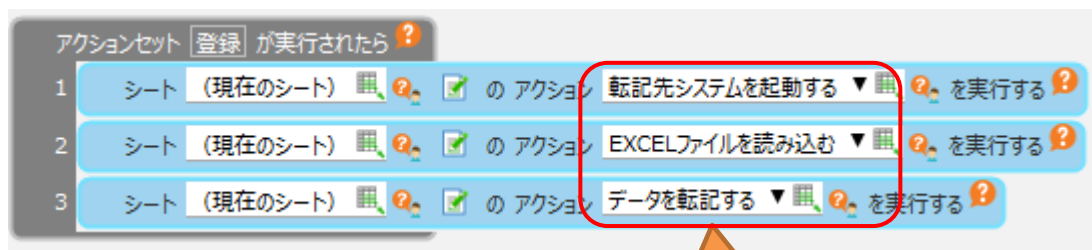
1 - 3 - 4. 登録

- ① これまでに作成した3つのアクションセットを呼び出します。

アクションセット名：登録

動作詳細：3つのアクションセットを呼び出し転記処理を実行する

利用アクション：シート操作タブ 上から4番目



作成したアクションセットを選択します。
 順番は以下の通りにして下さい。
 「転記先システムを起動する」
 「EXCELファイルを読み込む」
 「データを転記する」



1 - 3 - 4. 登録

②アクションセット設定の「OK」ボタンをクリックして、終了します。



アクションセット設定

セル操作 シート操作 データ操作 制御 ファイル操作 SQL ロボット

アプリ (現在のアプリ) のシート に切替える
パラメータ +

アプリ (現在のアプリ) のシート を新規ウィンドウで表示する
 アクティブウィンドウ以外は操作させない
 ウィンドウサイズの変更を許可する
パラメータ +

シートを閉じる
パラメータ +

シート (現在のシート) のアクション を実行する

シート のセル に をセットする

シート (現在のシート) を以下に Excel ファイルとして保存する
 ポップアップで選択する
 指定パスを使用する
 ...
 数式は計算結果を出力する

シート (現在のシート) を印刷する
 印刷プレビューを表示する

テスト実行 順次実行

アクションセット 登録 が実行されたら

- シート (現在のシート) のアクション 転記先システムを起動する を実行する
- シート (現在のシート) のアクション EXCELファイルを読み込む を実行する
- シート (現在のシート) のアクション データを転記する を実行する

クリックします。

OK キャンセル



1 - 3 - 4. 登録

③ 「登録」 ボタンを押したときの動作に、「登録」 アクションセットを割り当てます。



メイン画面

MS Pゴシック

「登録」 ボタンをクリックすると「アクションセットの選択」画面が表示されます。

	A			
1		システム	C:\p	
2		システム	マスタ	
3		Excelフ	C:\p	
4		Excelシ	デー	
5		カウンタ		
6				
7				
8				

登録

アクションセットの選択

+新規アクションセット作成 ?

名前	設定済みボタン	設定済みセル
転記先システムを起	⚙	📊 📄 🗑
EXCELファイルを読み	⚙	📊 📄 🗑
データを転記する	⚙	📊 📄 🗑
登録	⚙	📊 📄 🗑

「登録」 アクションセットをクリックしてから「選択」 ボタンをクリックし、割り当てを完了します。

選択 キャンセル



1 - 3 - 4. 登録

④テスト実行を開始します。



メイン画面

MS Pゴシック 11

シート クリップボード フォント 配置 編集 名前管理 入力形式 データ アクション シート設定 ヘルプ

B7 =BUTTON("登録", 1)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1		システム	C:\rpdemo\SeminarApp\SeminarApp.exe		読込データ							
2		システムのタイトル	マスターデータ管理									
3		Excelファイル名	C:\rpdemo\データ.xlsx									
4		Excelシート名	データ									
5		カウンタ										
6												
7		登録										
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												

CEL Fメッセージ

テスト実行モードでシートを開きます。
これにより公開時の動作を確認できます。また、編集中の内容は保存されます。

OK キャンセル

クリックします。

「OK」ボタンをクリックすると動作を開始します。



1 - 3 - 4. 登録

⑤ 「登録」 ボタンをクリックして、期待通りの動作となっているか確認します。

クリックします。
※動作中はマウス、キーボードを
触らないで下さい。

完了しました。
OK

完了すると、メッセージが表示されます。
「OK」 ボタンをクリックして下さい。
転記先のシステムが右図のようになれば成功
です。

コード	名称	単価
1	商品A	¥500
2	商品B	¥200
3	商品C	¥400
4	商品D	¥300
5	商品E	¥100

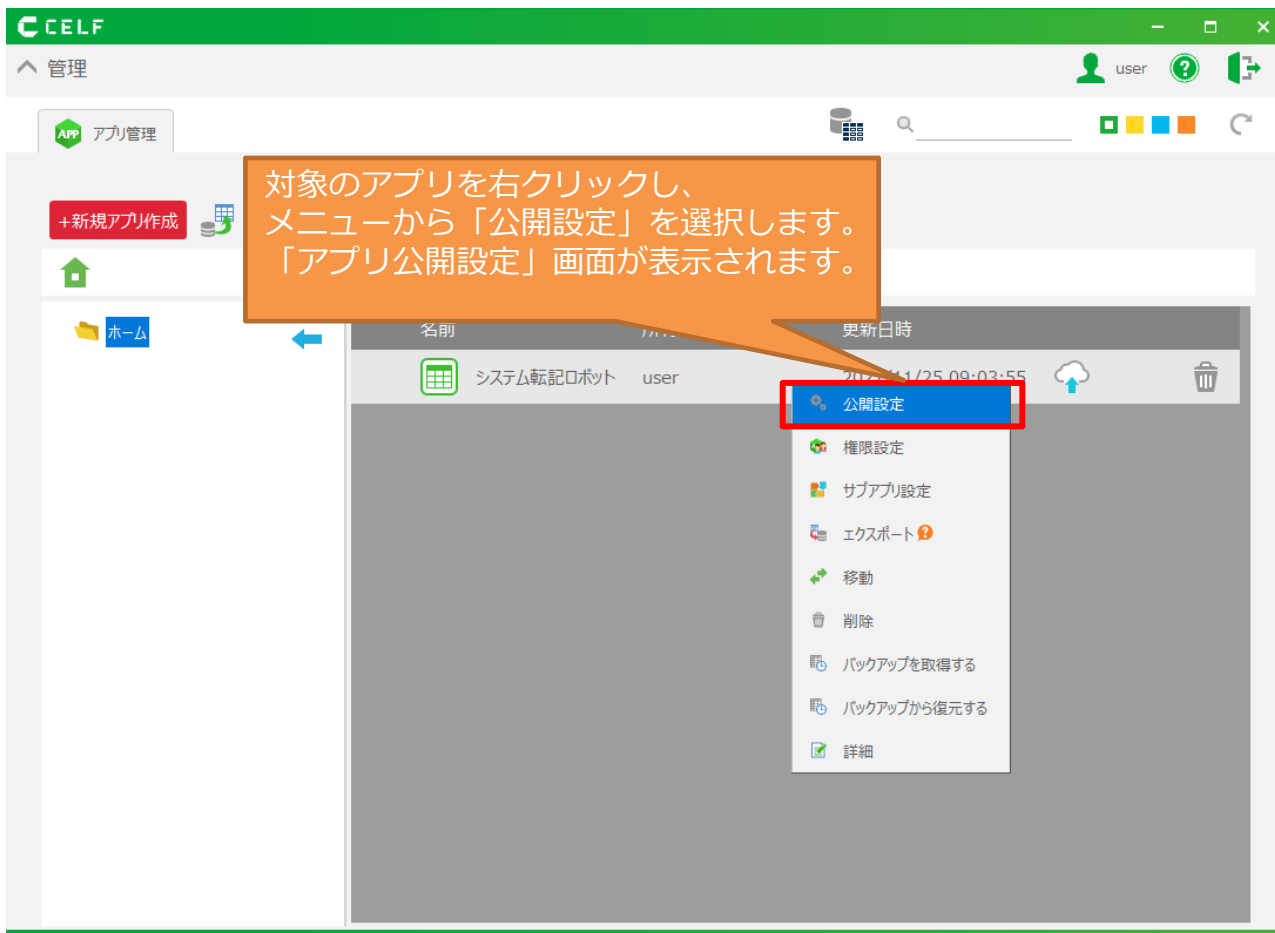
動作の確認が完了したら転記先システムとテスト実行画面を右上の「×」ボタンで終了します。

1 - 4. アプリを公開して利用する



公開設定

①公開するアプリの上で右クリックし、「公開設定」メニューを選択します。



公開設定

②開始シートと公開先グループを指定します。

公開先を設定します。
本セミナーでは「全体に
公開する」を選択します。

アプリ公開設定

基本 その他 テーブル切替え

システム転記ロボット

サブアプリとして公開する

開始シート メイン画面

全体に公開する

公開先グループを選択する

- 承認者グループ
- 登録者グループ
- 企画部
- 生産部
- 営業部
- 事務グループ
- 管理者グループ

アプリ作成者（所有者）のみに公開する

OK キャンセル

開始シートに「シート選択」画面
から「メイン画面」を選択します。

最後に、「OK」を
クリックします。

シート選択

アプリ [現在のアプリ]

シートを選択してください。

シート

メイン画面

* はサブアプリのシートです。

OK キャンセル

公開設定

③ 転記ロボットを公開します。





使う

公開された「システム転記ロボット」が実行できます。



システム名	システムID	システム種別	システム種別

更新日: 2021/11/19

2. WEBサイトへの データ自動転記ロボット



CEL F

～構造解析（オブジェクト認識）とは～

CELLFでは、データ入力や読み取り、マウスクリックなどをロボットに行わせる時に、その操作対象を構造解析（オブジェクト認識）で設定することもできます。

WORD、EXCEL などのアプリケーションや WEB サイトの場合、画面上で操作したい対象を選択することで、自動で画面構造を解析して、操作対象のオブジェクトをロボットに認識させることができます。

画面上の項目を入力・操作する
操作対象 (設定されていません)

項目名	値
アプリケーション:	C:\Program Files (x86)\MicrosoftEdgeVA
実行ファイル:	C:\Program Files (x86)\MicrosoftEdgeVA\MicrosoftEdgeVA.exe
ウィンドウタイトル:	CELLF RPA Sample - プロファイル 1 - Microsoft
種別:	文字入力欄
備考:	例) SCSK株式会社
内部種別:	
内部ID:	company

会社名: 例) SCSK株式会社
名前(姓): 例) 山田
名前(名): 例) 太郎
E-mail: 例) yamada.taro@scsk.jp
電話番号: 例) 03-1234-5678

種別: 文字入力欄
備考: 例) SCSK株式会社
内部ID: company

サイトの構造を解析し、項目がどんな種別（文字入力欄、ボタンなど）かを識別して、ロボットが操作を行う

構造解析の詳細については、CELLF RPA HELPでご確認ください。

構造解析（オブジェクト認識）による操作

2. WEBサイトへのデータ自動転記ロボット：全体の概要図

CELLF画面のデータを、WEBサイトへ転記します。

※本サンプルは、構造解析（オブジェクト認識）を利用してデータ入力を行います。



転記先WEBサイト

会社名：	<input type="text" value="株式会社セルフ"/>
名前(姓)：	<input type="text" value="セルフ"/>
名前(名)：	<input type="text" value="太郎"/>
E-mail：	<input type="text" value="hyodol@scsk.jp"/>
電話番号：	<input type="text" value="03-1234-5678"/>
<input type="button" value="登録"/>	

入力された内容は
株式会社セルフ
セルフ
太郎
hyodol@scsk.jp
03-1234-5678
です。

※ダウンロードしたコンテンツの
「SeminarWeb.html」

目次

- 2. WEBサイトへのデータ自動転記ロボット
 - 2-1. アプリを作成する
 - 2-2. シートを作成する
 - 2-3. アクションセットを作成する
 - 2-3-1. WEBサイト情報転記処理

2 - 1. アプリを作成する





2-1. アプリを作成する

アプリの作成は「1. Excelからのデータ自動転記ロボット」と同じです。
「1-1. アプリを作成する」を参照して下さい。

アプリ名は「Webサイト転記ロボット」で作成して下さい。



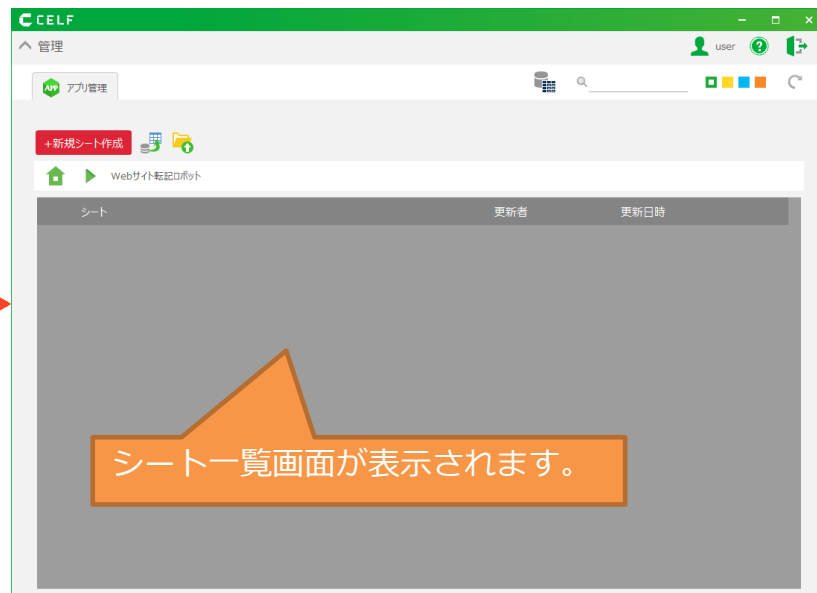
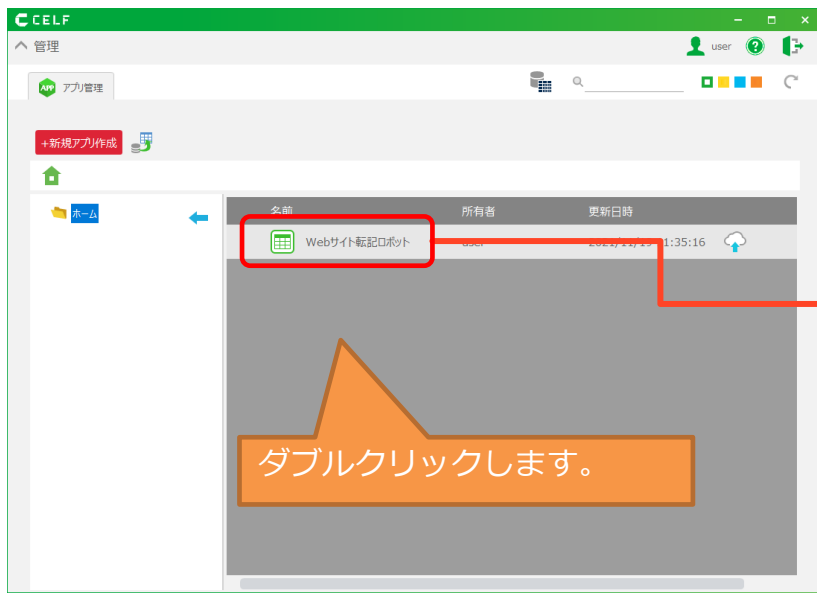
2-2. シートを作成する





シートの作成（新規作成）

- ① 「WEBサイト転記ロボット」をダブルクリックします。

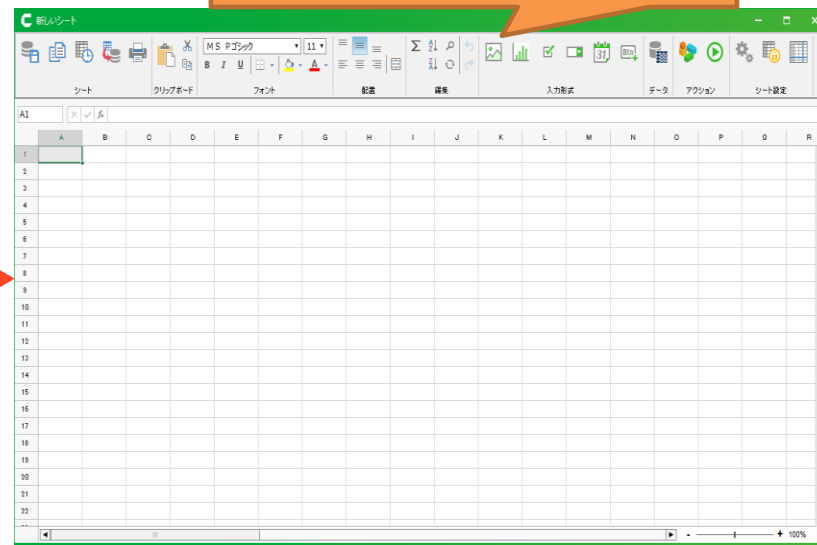
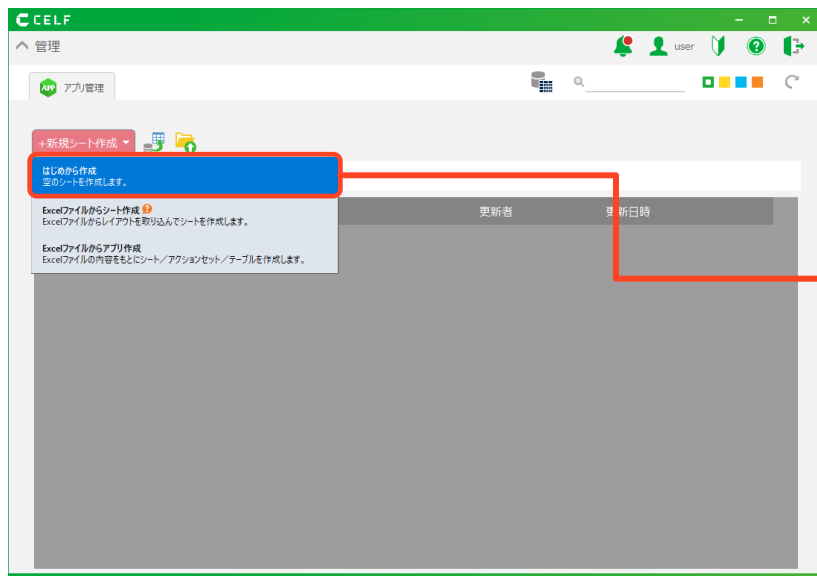




シートの作成（新規作成）

② 「新規シート作成」をクリックします。

シートの作成画面が表示されます。





シートの作成（新規作成）

- ③ 「転記」 ボタンと転記する「会社名」から「電話番号」までのデータを配置します。その後、シートの名称を「メイン画面」として保存して下さい。



The screenshot shows a spreadsheet application window titled "メイン画面". The ribbon includes "シート", "クリップボード", "フォント", and "配置". The formula bar shows "=BUTTON("転記", 1)". The spreadsheet grid has a button labeled "転記" in cell A1. A table of data is in cells B3 to B7:

会社名	株式会社セルフ
名前(姓)	セルフ
名前(名)	太郎
E-mail	hyodo1@scsk.jp
電話番号	03-1234-5678

Two callout boxes provide instructions:

- Top callout: 次ページからボタン押下のアクションとして、「WEBサイト情報転記処理」を作成します。
- Bottom callout: 「WEBサイトへ転記するデータの領域です。」

2-3. アクションセットを作成する



2-3. アクションセットを作成する

実現したい動き

CELLF画面のデータを、WEBサイトへ転記します。

転記ロボット (CELLF)

Webサイト転記ロボット

CELLFのシートに設定されている値をWEBサイトに入力します。

転記	
会社名	株式会社セルフ
名前(姓)	セルフ
名前(名)	太郎
E-mail	hyodol@scsk.jp
電話番号	03-1234-5678

転記先WEBサイト

会社名 : 株式会社セルフ

名前(姓) : セルフ

名前(名) : 太郎

E-mail : hyodol@scsk.jp

電話番号 : 03-1234-5678

登録

入力された内容は
株式会社セルフ
セルフ
太郎
hyodol@scsk.jp
03-1234-5678
です。

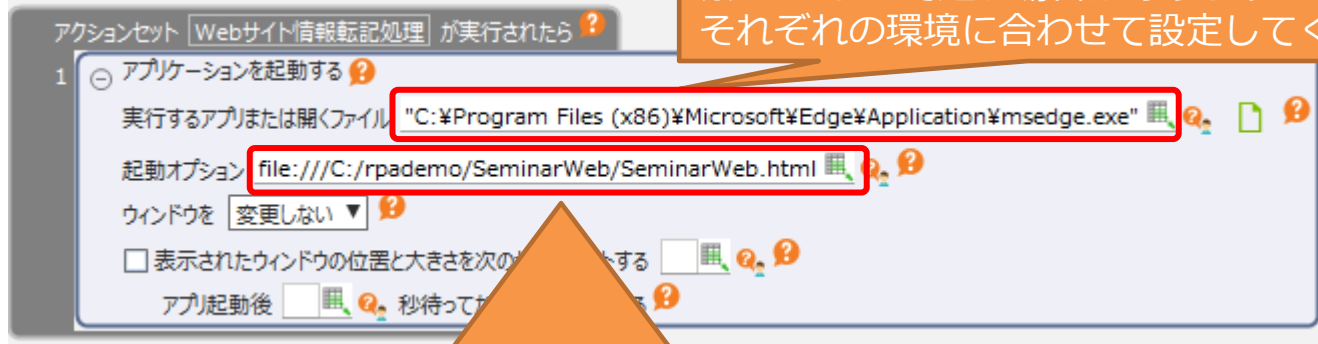


2-3. アクションセットを作成する

- ①アクションセット「WEBサイト情報転記処理」を作成します。
 まずは、「アプリケーションを起動する」アクションを利用してWEBサイトを
 を表示します。



アクションセット名 : WEBサイト情報転記処理
 動作詳細 : データをWEBサイトに転記する
 利用アクション : ロボットアクション 上から16番目



「Microsoft Edge」のパスを設定します。
 ※PCによって違う場合がありますので、
 それぞれの環境に合わせて設定してください。

サイトのURLを設定します。
 本サンプルでは、WEBサイトを模したダウンロードコンテンツの
 ファイルを指定します。
 file:///C:/rpademo/SeminarWEB/SeminarWEB.html



2-3. アクションセットを作成する

②テスト実行を行い、「Microsoft Edge」が起動されることを確認します。



アクションセット設定

アクションセット Webサイト情報転記処理 が実行されたら ?

1 アプリケーションを起動する ?

実行するアプリまたは開くファイル "C:\Program Files (x86)\Microsoft\Edge\Application\msedge.exe" ?

起動オプション file:///C:/rpademo/SeminarWeb/SeminarWeb.html ?

ウィンドウを 変更しない ?

表示されたウィンドウの位置と大きさを次のセルにセットする ?

アプリ起動後 秒待ってから領域を取得する ?

マウスの 左ボタン を 1 回 クリックする ?

操作対象 (設定されていません)

次のキーを同時に押す CTRL SHIFT WIN ALT

クリックされた位置を次のセルにセットする ?

マウスの 左ボタン をダブルクリックする ?

操作対象 (設定されていません)

次のキーを同時に押す CTRL SHIFT WIN ALT

ダブルクリックされた位置を次のセルにセットする ?

マウスの 左ボタン を押したままにする ?

操作対象 (設定されていません)

マウスボタンを押し込まれた位置を次のセルにセットする ?

マウスの 全て を離す ?

上 方向に だけホイール回転させる ?

操作対象 (設定されていません)

ホイール回転された位置を次のセルにセットする ?

ドラッグ&ドロップする ?

ドラッグ開始位置 (設定されていません)

テスト実行 実行済み 確認ボタン(ALT)

OK キャンセル 適用

CELFP Sample

会社名: (例) SCSK株式会社

名前(姓): (例) 山田

名前(名): (例) 太郎

E-mail: (例) yamada.taro@scsk.jp

電話番号: (例) 03-1234-5678

登録

「Microsoft Edge」で、このような入力画面が表示されることを確認します。



2-3. アクションセットを作成する

- ③ 「Microsoft Edge」が起動するまで待機します。
その後、WEBサイトの各項目にデータを転記します。

利用アクション : ロボットアクション 上から28番目
利用アクション : ロボットアクション 上から14番目



「Microsoft Edge」の起動時間に応じて
待機時間を調整してください。

「操作対象を選択」をクリックして、
WEBサイトの「会社名」のテキスト
ボックスを指定します。
詳細は次のページから説明します。

5 秒待機する ?

画面項目を入力・操作する ?

操作対象

: 例) SCSK株式会社

画面項目

アプリケーション:

ウィンドウ: CELF RPA Sample - プロファイル 1 - Microsoft Edge

種別: 文字入力欄

備考: 例) SCSK株式会社

次の値をセットする =B3 ?

画面項目の位置 次のセルにセットする ?

会社名:	例) SCSK株式会社
名前(姓):	例) 山田
名前(名):	例) 太郎
E-mail:	例) yamada.taro@scsk.jp
電話番号:	例) 03-1234-5678
登録	

「会社名」が設定してある
B3セルを指定します。

WEBサイトの「会社名」の項目が
操作対象として設定されています。



2-3. アクションセットを作成する

- 「操作対象を選択」をクリック後、アプリケーションやWEBサイトの画面項目を指定します。
「Alt」 + 「Tab」キーで転記先WEBサイトに切り替え、「会社名」のテキストボックスを選択して下さい。



この状態でクリックします。

文字入力欄

会社名：例) SCSK株式会社

名前(姓)：例) 山田

名前(名)：例) 太郎

E-mail：例) yamada.taro@scsk.jp

電話番号：例) 03-1234-5678

登録

操作対象指定

画面項目

操作する画面項目をツリーから選択してください。

例) [文字入力欄] 例) SCSK株式会社

項目名	値
アプリケーション:	C:\Program Files (x86)\Microsoft\Edge\A
実行ファイル:	CELFRPA Sample - プロファイル 1 - Microsof
ウィンドウタイトル:	文字入力欄
種別:	例) SCSK株式会社
備考:	
内部種別:	
内部ID:	company

「設定」ボタンをクリックすると、WEBサイトの「会社名」が操作対象として選択されます。

設定 キャンセル



2-3. アクションセットを作成する

④WEBサイトの「名前」～「電話番号」にデータを転記します。

利用アクション : ロボットアクション 上から14番目

4 画面上的項目を入力・操作する

操作対象

画面項目

次の値をセットする = B4

5 画面上的項目を入力・操作する

操作対象

画面項目

次の値をセットする = 5

6 画面上的項目を入力・操作する

操作対象

画面項目

次の値をセットする = 6

7 画面上的項目を入力・操作する

操作対象

画面項目

次の値をセットする = B7

会社名 : 例) SCSK株式会社

名前(姓) : 例) 山田

名前(名) : 例) 太郎

E-mail : 例) yamada.taro@scsk.jp

電話番号 : 例) 03-1234-5678

登録

「会社名」のテキストボックスの選択と同様の手順で、各項目のテキストボックスを選択する。

	A	B
1	転記	
2		
3	会社名	株式会社セルフ
4	名前(姓)	セルフ
5	名前(名)	太郎
6	E-mail	hyodo1@scsk.jp
7	電話番号	03-1 234-5678
8		

「会社名」と同様に項目に転記するセルB4～B7を指定する



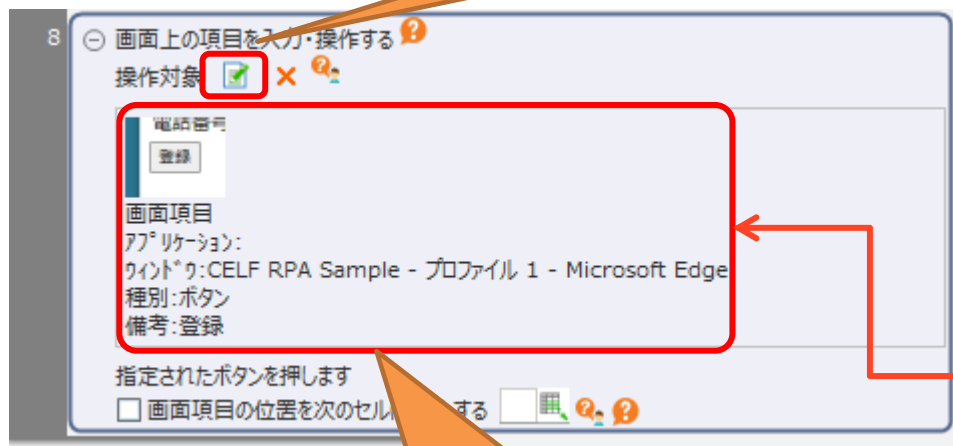


2-3. アクションセットを作成する

⑤WEBサイトに転記したデータを登録します。

利用アクション : ロボットアクション 上から14番目

「操作対象を選択」をクリックして、WEBサイトの「登録」ボタンを指定します。



WEBサイトの「登録」ボタンが操作対象として設定されています。

会社名 :

名前(姓) :

名前(名) :

E-mail :

電話番号 :

2-4. アプリを公開して利用する





公開設定とアプリの利用

公開設定とアプリの利用は「1. Excelからのデータ自動転記ロボット」と同じです。

「1 - 4. アプリを公開して利用する」を参照して下さい。



その他技術情報



CELF HELPのご案内

CELFのヘルプをご用意しております。ご活用ください。

メニュー上部の「？」マークからHELPにアクセスできます。

The screenshot displays the CELF application interface. At the top, there is a navigation bar with the CELF logo and a user profile icon labeled 'CELF講師1'. A red box highlights a question mark icon in the top right corner of the application, with an arrow pointing to a callout box containing the text 'メニュー上部の「？」マークからHELPにアクセスできます。'. Below the application interface, a browser window shows the CELF help page. The browser address bar contains 'http://celf.scskinfo.jp/celf-help/ja/index.html'. The page title is 'celf help 2.3-0.1 ドキュメント'. The page content is organized into a table of contents with the following sections:

- 目次**
 - ログイン
 - スタートアップ (5分クッキング)
 - テーブル管理
 - アプリ作成
 - シート作成
 - アクション作成
 - アクションの使い方
 - テスト実行
 - 公開・非公開
 - 外部接続/基幹システム連携
 - 小技/逆引き
 - 各種登録・設定・参照
 - よくあるご質問
 - ロボットアクションの使い方
- クイック検索**
- CELF ヘルプ**
 - ログイン**
 - ログインする
 - ログアウトする
 - スタートアップ (5分クッキング)**
 - アプリシートを作成する
 - テーブルと画面、アクションを作成する
 - アプリを利用する
 - サンプルアプリをインポートする
 - 見積・案件管理
 - 予算実績管理
 - その他便利機能
 - テーブル管理**
 - テーブルを作成する
 - 作成したテーブルの定義を後から変更する
 - 作成したテーブルの定義を複製する
 - テーブル定義をエクスポートする
 - テーブル定義をインポートする
 - テーブルデータ (CSV) をエクスポートする
 - テーブルデータ (CSV) をインポートする
 - テーブルの権限を設定する
 - テーブル検索を高速化する (インデックス設定)
 - マスター管理用シートを自動生成する
 - アプリ作成**
 - アプリの編集権限を設定する
 - アプリをカテゴリ分けして一覧表示を階層化する
 - アプリをエクスポートする
 - アプリをインポートする
 - アプリをバックアップ、および、復元する
 - シート作成**
 - 行の高さ・列の幅を変更する
 - 行または列の表示・非表示をする
 - 行または列を挿入・削除する
 - セルの書式を変更する
 - ウィンドウの枠固定をする
 - コントロールを配置する
 - シートへ画像を挿入する
 - シートにグラフを挿入する
 - 既存 Excel からレイアウトを作成する
 - アクション作成**
 - アクションセットを組み立てる
 - アクションにコメントを書く
 - アクションを無効化する
 - アクションをコピーする
 - シートを表示した際に動作するアクションを指定する
 - セルの値の更新時にアクションセットを実行する (基本編)
 - セルの値の更新時にアクションセットを実行する (応用編)
 - 他のアプリのシートを汎用部品とし

Do it By Your **CEL**F!



SCSK

夢ある未来を、共に創る。



<http://www.celf.jp>

「Excel」は、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他、本資料に記載されている製品名、会社名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。